

# 2010 年度 事業報告書

自 2010年4月 1日

至 2011年3月31日

107-0052 東京都港区赤坂1-2-2

財団法人 日 本 音 楽 財 団

## I 概 要

財団法人日本音楽財団は、アマチュア音楽の振興を目的に 1974 年 3 月に設立され、設立 20 年を迎えた 1994 年からは、主に、西洋クラシック音楽を中心とする「音楽国際交流事業」と、国内外の音楽関連の団体が行なう事業に助成する「音楽文化の振興事業」を中心に事業を展開している。

音楽国際交流事業では、アントニオ・ストラディヴァリ等によって製作された世界最高峰の弦楽器を保有し、国籍を問わず一流の演奏家や若手有望演奏家に無償で貸与する「弦楽器名器の貸与事業」を行っている。この事業は、世界的文化遺産といわれる弦楽器名器を保全し、これらを次世代に継承するとともに、それらの活用によって、西洋クラシック音楽に対する日本の国際貢献と音楽を通じた国際交流を目指している。

当財団の保有楽器は、巻末別表 4 のとおり、2011 年 3 月末現在 21 挺である。当財団は、これら文化遺産の管理者として大きな責務を負っていることを自覚し、保有楽器の保守・保全に関しては、最善の手段を講じるよう努めている。楽器の貸与方針並びに貸与者については、欧・米・アジアの有識者で構成される楽器貸与委員会で慎重に審議されている。

当財団では貸与事業の広報を目的として、楽器貸与者による演奏会を国内外で開催しているが、本年度は海外演奏会事業としてフランス・パリにおいて開催した。国内においては東京で 3 回実施したが、そのうち特筆すべきは、世界的に活躍しているピアニストの内田光子さんが、若手有望演奏家に無償で楽器を貸与している当財団の活動に感銘を受けられ、ヴィヴィアン・ハーグナーとのデュオ・コンサートに無報酬で出演して下さったことである。

2007 年度から「地方における演奏会開催事業」を実施している。この事業は、地方都市において、財団保有楽器と楽器貸与者による演奏会を開催し、地方のクラシック音楽愛好家に世界的文化遺産である弦楽器名器による演奏に触れる機会を提供するとともに、当財団の楽器貸与事業を通じた国際貢献に対する理解の促進を目的としている。本年度は大阪、金沢、神戸の 3 都市でチャリティコンサートを開催した。

もう一つの大きな柱である「音楽文化の振興事業」の助成金の交付は、外部有識者で構成される事業運営委員会の審議を経て、音楽諸団体が実施する各事業に幅広い支援を行った。音楽の普及と振興を図るためには、それぞれの地域に根ざした音楽団体への支援を広範囲に増やしていくことが重要であると認識している。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の復興支援のため、一法人として今後どのような支援ができるのか検討していくこととし、当財団の楽器貸与者を含めこれまで培った国内外の関係者のネットワークを活用し、募金及びチャリティコンサート等の協力依頼を積極的に行った。

上記のような当財団の事業の運営・実施にあたっては、監督官庁の指導を仰ぐとともに、貴重なボートレースの交付金による日本財団の助成金を受けている。当財団としては、国内外における音楽文化の発展に寄与するため、適切な運営のもと、業務体制の充実と事業の一層の効率的実施に向けて、今後とも努力する所存である。

## Ⅱ 総 務

### 1. 役員の変動

2010年6月18日開催の第87回理事会において第19期評議員の選任を行った。安倍寧氏、リチャール・コラス氏、藤田潔氏の3名が任期満了に伴い退任し、その他の第18期評議員11名は再任された。

年度末現在の理事・監事の名簿は巻末別表1、評議員の名簿は巻末別表2のとおりである。

### 2. 理 事 会

本年度は、理事会を下記のとおり3回開催した。

#### 第87回理事会

開催日 2010年6月18日(金) 13:30～15:05

場 所 アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウイング 37階

#### 議決事項

- 第1号議案 2009年度事業報告について
- 第2号議案 2009年度収支決算について
- 第3号議案 評議員の選任について
- 第4号議案 公益法人改革に伴う当財団の方向について
- 第5号議案 規程の改正について
- 第6号議案 非常勤役員の退職慰労金の支給について

#### 第88回理事会

開催日 2011年1月18日(火) 13:30～14:50

場 所 アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウイング 37階

#### 議決事項

- 第1号議案 公益財団法人への移行にあたっての最初の評議員選任方法について

#### 第89回理事会

開催日 2011年3月8日(火) 13:30～14:45

場 所 アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウイング 37階

#### 議決事項

- 第1号議案 2011年度事業計画について
- 第2号議案 2011年度収支予算について
- 第3号議案 公益団法人への移行にあたっての最初の評議員選任のための評議員選定委員会委員の選任について

### 3. 評 議 員 会

本年度は、評議員会を下記のとおり3回開催した。

#### 第 75 回評議員会

開催日 2010 年 6 月 18 日(金) 11:00~12:10

場 所 アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウイング 37 階

##### 議決事項

第 1 号議案 2009 年度事業報告について

第 2 号議案 2009 年度収支決算について

第 3 号議案 公益法人改革に伴う当財団の方向について

#### 第 76 回評議員会

開催日 2011 年 1 月 18 日(火) 11:00~12:00

場 所 アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウイング 37 階

##### 議決事項

第 1 号議案 公益財団法人への移行にあたっての最初の評議員選任方法について

#### 第 77 回評議員会

開催日 2011 年 3 月 8 日(火) 11:00~11:50

場 所 アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウイング 37 階

##### 議決事項

第 1 号議案 2011 年度事業計画について

第 2 号議案 2011 年度収支予算について

第 3 号議案 公益団法人への移行にあたっての最初の評議員選任のための評議員選定委員会委員の選任について

#### 4. 登 記 事 項

登記事項の変更事項はなかった。

#### 5. 主務大臣(文部科学大臣)への届出等

文部科学大臣に対し提出した届出事項は以下のとおりである。

2010 年 6 月 30 日 2009 年度事業報告書及び決算報告書

2011 年 2 月 3 日 最初の評議員の選任に関する理事の定め認可申請  
(認可:2011 年 2 月 21 日付け)

2011 年 3 月 31 日 2011 年度事業計画及び収支予算書届

#### 6. 外部監査の実施

本年度も永和監査法人に監査を委託し、期中監査を 2011 年 3 月に実施し、期末監査を 2011 年 5 月に実施した。

#### 7. 事 務 局

事務所を東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5 階に置き、業務を遂行した。  
年度末現在の事務局役職員数は常勤役員 2 名、職員 6 名、計 8 名である。

### Ⅲ 事 業

#### 1. 音楽国際交流事業

弦楽器名器の貸与事業及びその広報を目的とした演奏会を中心に事業を実施した。

##### (1) 弦楽器名器の保守管理

当財団は、保有している弦楽器名器を永く次世代へ引き継ぐため、楽器の修理及び調整内容等については慎重に検討し、名器の取り扱いに馴れている世界屈指の楽器商を指定し、最良の保全方法を処方している。長期貸与に供している楽器については、各貸与者に定期的(年 4 回)に指定楽器商による楽器の状態チェックを義務付けるとともに、楽器商からは報告書(コンディションレポート)の提出を受けている。なお、年に一度は同じ目で楽器を見る必要があるという観点から、年 4 回の定期的チェックの内 1 回はロンドン在住の Andrew Hill 氏(当財団の楽器アドバイザー)のコンディション・チェックを受けるように指示している。

貸与中の楽器のメンテナンスや修理費は当財団が負担している。これは世界的文化遺産といわれる弦楽器名器に関して、どこで誰がどのような修理をしたかという記録を「管理者」として残しておく責任があるからである。

なお、財団保有の楽器は、製作後約 300 年経過しており、その間、ほとんど大規模な修理が行われていないため、経年による大規模な修理、補修が必要な楽器が出てきている。本年度は 1680 年製 Stradivarius Violin “Paganini” と 1725 年製 Stradivarius Violin “Wilhelmj” の 2 挺について経年による大規模修理を行っている。今後も微調整には止まらない修理、メンテナンスが必要となる楽器が多くなるものと予想され、定期メンテナンス以外の修理、補修に対応する予算措置が必要となってきている。

当財団では楽器貸与事業開始当初より、各貸与者に対して戦争地域及び治安が不安定な国への当財団の楽器持参並びに船舶等での演奏を禁じている。また、国家的権力による楽器の没収の危険のある国、地域については、貸与者の演奏活動に応じて随時指示を出して対応している。ロシアについては入国時に必ず証明書に押印することを義務付けており、また、中国に関しては不安定要素が多いことから、公演受け入れ先が楽器持ち出しを保証しない限り、当財団の楽器の持込を禁じている。

楽器保険についても全額、当財団が支払っており、2 社の保険会社と契約し、よりよい条件と料率で付保できるよう努力している。

##### (2) 弦楽器名器の貸与

長期貸与者を審査する楽器貸与委員会を下記のとおり開催した。

###### 1) 第 16 回楽器貸与委員会

日 時 2010 年 6 月 11 日(金) 11:00~13:00

場 所 アメリカ合衆国ニューヨーク市

Trump International Hotel & Tower 内会議室

楽器貸与委員 巻末別表 3 のとおり

財団保有楽器 巻末別表 4 のとおり  
審議事項 現在の貸与状況及び貸与更新について  
その他

#### 審議結果

1 年間(2011 年 8 月 31 日まで)の貸与延長が承認された演奏家(15 名)

東京クワルテット

(Martin Beaver、池田菊衛、磯村和英、Clive Greensmith)

Veronika Eberle、Sergey Khachatryan、Lisa Batiashvili、

Hyun-Su Shin、諏訪内晶子、Geza Hosszu-Legocky

Arabella Miho Steinbacher、Viviane Hagner、Manrico Padovani

Yuki Manuela Janke、石坂団十郎

1 年未満で貸与期限が延長された演奏家(2 名)

Baiba Skride(2010 年 11 月)

Steven Isserlis(2011 年 5 月)

Ray Chen への貸与について

Ray Chen は 2009 年のベルギー・エリザベート王妃国際コンクールに優勝し、その副賞として Stradivarius Violin “Huggins”を貸与されている。

しかし、他の団体より Stradivarius Violin “Macmillan”(2008-2009 年のニューヨーク・国際ヤング・アーティスト・オーディション優勝の副賞)も 2012 年 6 月まで貸与されている。

“Huggins”が有効に使用されていない状況について審議され、「“Huggins”については一度返却してもらい、“Macmillan”の貸与終了後、再度日本音楽財団の楽器を貸与してはどうか」との提案があり、全員が合意した。

短期貸与用楽器

del Gesu “Muntz”、Stradivarius “Wilhelmj”及び Stradivarius “Huggins”が当分の間、短期貸与用とすることが確認された。

その他

Stradivarius Violin “Lady Blunt”は貸与せず保管することが財団の理事会で承認されたことが報告された。

## 2) 楽器の貸与状況

2011 年 3 月末現在における保有楽器 21 挺の貸与状況の内訳は、長期貸与用 13 挺、短期貸与用 2 挺、その他 6 挺である。(巻末別表 5 参照)

短期貸与は、特定の演奏会及び CD 録音等の目的のため貸し出しを行なっている。現有楽器の本年度における楽器毎の貸与状況は下記のとおりである。

(貸与推薦者等の敬称は省略)

なお、下記の 3 名については、2010 年 10 月の A. Hill の定期チェックにおいて、楽器の取り扱いに問題があり、楽器に悪影響が出ている旨の指摘があり、貸与を終了した。年度末現在、楽器はそれぞれヨーロッパの楽器商においてメンテナンス中である。

Hyun-Su Shin 1710 年製 Stradivarius Violin “Camposelice”

Geza Hosszu-Legocky 1715 年製 Stradivarius Violin “Joachim”

Manrico Padovani 1722 年製 Stradivarius Violin “Jupiter”

(各楽器の貸与状況)

① Stradivarius “Paganini Quartet”

貸与者 東京クワルテット(アメリカ・ニューヨーク在住)  
1727年製 Violin Martin Beaver  
1680年製 Violin 池田菊衛  
1731年製 Viola 磯村和英  
1736年製 Cello Clive Greensmith

貸与推薦者 楽器貸与委員全員

当該楽器を使用しての演奏 合計 85回(聴衆約 47,000名)

当該楽器を使用して CD(Beethoven The ‘Late’ String Quartets)をリリースした。

1995年9月27日より貸与しているが、2011年8月31日(貸与期間15年11ヶ月)まで契約を延長した。当財団の地方及び海外演奏会(後述)に出演した。

② 1700年製 Stradivarius Violin “Dragonetti”

貸与者 Veronika Eberle(ドイツ・ドナウヴェルト在住)

貸与推薦者 Ana Chumachenco

(ヴァイオリニスト、ミュンヘン音楽大学教授)

Sir Simon Rattle(指揮者)

内田光子(ピアニスト)

当該楽器を使用しての演奏 合計 56回(聴衆約 47,000名)

2009年5月11日より貸与しているが、2011年8月31日(貸与期間2年4ヶ月)まで契約を延長した。

③ 1702年製 Stradivarius Violin “Lord Newlands”

貸与者 Sergey Khachatryan(ドイツ・エシュボルン在住)

貸与期間 2009年4月7日から2011年1月30日

当該楽器及び del Gesu Violin”Ysaye”を使用しての演奏

合計 53回(聴衆約 74,000名)

当該楽器を使用して CD(BACH SONATAS & PARTITAS)をリリースした。

同氏は 2005年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者であり、2009年4月まで1708年製 Stradivarius Violin “Huggins”を貸与(3年10ヶ月)した。引き続きの貸与の申請があり当該楽器を2009年4月7日より、2011年8月31日(貸与期間2年5ヶ月、同氏への通算貸与期間6年1ヶ月)まで契約を延長したが、本人の希望もあり、2010年10月に del Gesu Violin”Ysaye”へ楽器を変更した。当財団の海外演奏会(後述)に出演した。

④ 1708年製 Stradivarius Violin “Huggins”

1) 貸与者 Ray Chen(アメリカ・フィラデルフィア在住)

貸与期間 2009年6月2日から2010年9月8日

当該楽器は1997年5月開催のベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールよりヴァイオリン部門優勝者に、その副賞として次期コンクールまでの3年間貸与することになっている。前述のとおり楽器貸与委員会の決定を受け、Ray Chenより当該楽器を9月8日付け(アメリカ・ニューヨーク)で返還を受けた。

2) 貸与者 池田菊衛(東京クワルテットメンバー)

貸与期間 2010年10月11日から約1年

1680年製 Stradivarius Violin “Paganini”の経年による大規模修理のため上記期間代替楽器として貸与中。

⑤ 1709年製 Stradivarius Violin “Engleman”

貸与者 Lisa Batiashvili (フランス・ラモルレイ在住)  
貸与推薦者 Osmo Vanska (指揮者)  
Alfred Brendel (ピアニスト)

当該楽器を使用しての演奏 合計 36回 (聴衆約 66,200名)

当該楽器を使用して CD (Echoes of Time) をリリースした。

2001年11月2日より貸与しているが、2011年8月31日(貸与期間9年10ヶ月)まで契約を延長した。

⑥ 1710年製 Stradivarius Violin “Camposelice”

貸与者 Hyun-Su Shin (韓国・ソウル在住)  
貸与推薦者 Nam-Yun Kim (ヴァイオリニスト)  
原田幸一郎 (ヴァイオリニスト)

2010年3月7日より貸与を開始したが、楽器の取り扱いに問題があったため、2010年10月8日(貸与期間7ヶ月)で貸与を終了した。当財団の海外演奏会(後述)に出演した。

⑦ 1714年製 Stradivarius Violin “Dolphin”

貸与者 諏訪内晶子 (フランス・パリ在住)  
貸与推薦者 Charles Dutoit (指揮者)  
徳永二男 (ヴァイオリニスト)

当該楽器を使用しての演奏 合計 46回 (聴衆約 85,000名)

2000年8月11日より貸与しているが、2011年8月31日(貸与期間11年)まで契約を延長した。当財団の海外演奏会(後述)に出演した。

⑧ 1715年製 Stradivarius Violin “Joachim”

貸与者 Geza Hosszu-Legocky (ベルギー・ブリュッセル在住)  
貸与推薦者 Charles Dutoit (指揮者)  
Martha Argerich (ピアニスト)

2009年11月5日より貸与を開始したが、楽器の取り扱いに問題があったため、2010年10月31日(貸与期間1年)で契約を終了した。当財団の海外演奏会(後述)に出演した。

⑨ 1716年製 Stradivarius Violin “Booth”

貸与者 Arabella Miho Steinbacher (ドイツ・ミュンヘン在住)  
貸与推薦者 Ana Chumachenco  
(ヴァイオリニスト、ミュンヘン音楽大学教授)  
Anne-Sophie Mutter (ヴァイオリニスト)

当該楽器を使用しての演奏 合計 67回 (聴衆約 104,000名)

2005年5月5日より貸与しているが、2011年8月31日(貸与期間6年4ヶ月)まで契約を延長した。なお、同氏には2006年9月4日より1736年製 Stradivarius Violin “Muntz” から当該楽器に楽器を変更して貸与している。当財団の国内及び海外演奏会(後述)に出演した。

⑩ 1717 年製 Stradivarius Violin “Sasserno”

貸与者 Viviane Hagner(ドイツ・ベルリン在住)  
貸与推薦者 Claudio Abbado(指揮者)  
Pinchas Zukerman(ヴァイオリニスト、指揮者)

当該楽器を使用しての演奏 合計 66 回(聴衆約 72,000 名)

当該楽器を使用して CD (VIEUXTEMPS Violin Concerto No.4,5, Fantasia appassionata)をリリースした。

1999 年 5 月 27 日より貸与しているが、2011 年 8 月 31 日(貸与期間 12 年 3 ヶ月)まで契約を延長した。当財団の国内及び海外演奏会(後述)に出演した。

⑪ 1722 年製 Stradivarius Violin “Jupiter”

貸与者 Manrico Padovani(スイス・ティチーノ在住)  
貸与推薦者 Anne-Sophie Mutter(ヴァイオリニスト)  
Aida Stucki Piraccini(ヴァイオリニスト)

2009 年 11 月 8 日より貸与を開始したが、楽器の取り扱いに問題があったため、2011 年 1 月 31 日(貸与期間 1 年 3 ヶ月)で貸与を終了した。当財団の海外演奏会(後述)に出演した。

⑫ 1725 年製 Stradivarius Violin “Wilhelmj”

貸与者 Baiba Skride(ドイツ・ハンブルク在住)

当該楽器を使用しての演奏(2010 年 4 月～10 月) 合計 47 回(聴衆約 23,000 名)

同氏は 2001 年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者であり、2005 年 2 月まで 1708 年製 Stradivarius Violin “Huggins”を貸与(3 年 9 ヶ月)していた。引き続きの貸与の申請があり当該楽器を 2005 年 2 月 22 日より 2010 年 11 月 1 日(貸与期間 5 年 8 ヶ月、同氏への通算貸与期間 9 年 5 ヶ月)まで貸与した。その後、当該楽器は長期貸与後のメンテナンスと大規模修繕のため、楽器商に預けている。

⑬ 1736 年製 Stradivarius Violin “Muntz ”

貸与者 Yuki Manuela Janke(ドイツ・グロベンゼン在住)  
貸与推薦者 外山雄三(指揮者、作曲家)  
Julia Fischer(ヴァイオリニスト、フランクフルト音楽大学教授)

当該楽器を使用しての演奏 合計 29 回(聴衆約 19,000 名)

2007 年 11 月 3 日より貸与しているが、2011 年 8 月 31 日(貸与期間 3 年 10 ヶ月)まで契約を延長した。当財団の国内、地方及び海外演奏会(後述)に出演した。

⑭ 1696 年製 Stradivarius Cello “Lord Aylesford”

貸与者 石坂団十郎(ドイツ・ベルリン在住)  
貸与推薦者 Daniel Barenboim(ピアニスト、指揮者)  
Krzysztof Penderecki(作曲家、指揮者)

当該楽器を使用しての演奏 合計 51 回(聴衆約 29,000 名)

2004 年 1 月 29 日より貸与しているが、2011 年 8 月 31 日(貸与期間 7 年 7 ヶ月)まで契約を延長した。当財団の海外演奏会(後述)に出演した。

⑮ 1730 年製 Stradivarius Cello “Feuermann”

貸与者 Steven Isserlis (イギリス・ロンドン在住)

貸与推薦者 Jasper Parrott (音楽家)

当該楽器を使用しての演奏回数 合計 5 回 (聴衆約 2,600 名)

1998 年 1 月 16 日より貸与しているが、2011 年 5 月 31 日 (貸与期間 13 年 4 ヶ月) まで契約を延長した。当財団の海外演奏会 (後述) に出演した。

⑯ 1736 年製 Guarneri del Gesu Violin “Muntz”

当該楽器は演奏会や録音のための短期貸与用に供しているが、本年度は下記の演奏家に貸与した。

貸与者 渡辺玲子

貸与推薦者 原田幸一郎 (ヴァイオリニスト)

徳永二男 (ヴァイオリニスト)

貸与期間 2010 年 6 月 1 日～2011 年 9 月 30 日

CD レコーディング及び演奏会のため

短期貸与は 6 ヶ月を原則としているが、積極的に当財団の事業に協力 (後述の東京及び地方での演奏会等) した結果、貸与期間の延長が認められた。

⑰ 1740 年製 Guarneri del Gesu Violin “Ysaye”

長期貸与後のメンテナンスのためヨーロッパの楽器商に預けてあったが、前述③のとおり 2011 年 1 月より Sergey Khachatryan に Lord Newlands に代わり当該楽器を貸与した。

⑱ 1721 年製 Stradivarius Violin “Lady Blunt”

この楽器は、ほとんど未使用で保存状態が非常に優れていることから、将来の楽器製作者の見本となる楽器として、保存・管理していくことが 2009 年 6 月 9 日開催の第 85 回理事会で承認されている。

(3) 国内演奏会の開催

日本国内における当財団の楽器貸与事業の広報に努めるとともに、ストラディヴァリウス等の名器の音色に触れる機会を提供している。本年は下記 1)～3) の 3 公演を東京で開催した。

11 月のチャリティコンサートは、財団の楽器貸与事業に感銘を受けられた世界的ピアニストの内田光子さんが、無報酬で出演して下さるとお申し出くださり実現した、非常に貴重なデュオ・コンサートである。

1) 演奏会の名称 「Arabella Miho Steinbacher ヴァイオリン・リサイタル」

日 時 2010 年 4 月 26 日 (月)

18:00～レセプション 19:00～20:00 演奏会

場 所 浜離宮朝日ホール (東京)

演 奏 者 Arabella Miho Steinbacher Stradivarius 1716 Violin “Booth” 使用  
占部由美子 (ピアノ)

来場者数 約 500 名 (親子でコンサートとして、17 組 34 名の親子を招待)

## 演奏曲目

ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ 第8番 ト長調 作品30-3

J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番ニ短調

BWV1004 より「シャコンヌ」

ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ 第5番 ヘ長調 作品24「春」

CDの作成 500部

## 2)演奏会の名称 「Strad. & del Gesu Concert 2010」

日時 2010年6月15日(火)

18:00～レセプション 19:00～20:00 演奏会

場所 浜離宮朝日ホール(東京)

演奏者 Yuki Manuela Janke Stradivarius 1736 Violin “Muntz”使用

渡辺玲子

Guarneri del Gesu 1736 Violin “Muntz”使用

坂野伊都子(ピアノ)

来場者数 約800名(親子でコンサートとして、8組16名の親子を招待)

## 演奏曲目

グリーグ:ヴァイオリンソナタ 第3番 ハ短調 作品45

ヤナーチェク:ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 変イ短調

サラサーテ:ヴァイオリン二重奏曲「ナバラ」作品33

CDの作成 500部

## 3)演奏会の名称 「内田光子 & Viviane Hagner デュオ・コンサート」

オーケストラ連盟青少年育成基金チャリティコンサート

日時 2010年11月20日(土) 15:00～16:20

場所 東京オペラシティコンサートホール(東京)

チケット販売 S席7,000円、A席6,000円、B席5,000円、C席4,000円、

D席3,000円

チャリティ先 オーケストラ連盟青少年育成基金

チャリティ額 5,106,392円

演奏者 Viviane Hagner Stradivarius 1717 Violin “Sasserno”使用

内田光子(ピアノ)

来場者数 約1,600名(一般1200名、招待400名)

## 演奏曲目

モーツァルト:ヴァイオリンとピアノのためのソナタ ホ短調 K.304

バルトーク:無伴奏ヴァイオリンソナタ Sz.117 より「シャコンヌのテンポで」

J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番ニ短調

BWV1004 より「シャコンヌ」

ブラームス:ヴァイオリンソナタ第1番ト長調 op.78《雨の歌》

## (4) 海外演奏会の開催

当財団保有の楽器及びその貸与者による演奏会を下記のとおりフランス・パリで開催した。本年も英国王立音楽院より Stradivarius 1696 Viola “Archinto” を借用し、メン

デルスゾーンのオクテットとラヴェルのカディッシュの演奏に使用した。演奏家は貸与者 14 名とピアニスト 1 名、チェンバロ奏者 1 名の計 16 名、楽器は、前述の“Archinto”を含め計 15 挺のストラディヴァリウスが一堂に会した。

演奏会の名称 Encounter with Stradivari 2010

日 時 2010 年 10 月 7 日 (木)

コンサート 20:30~22:00 夕食会 22:30~

場 所 パリ・ルーヴル美術館内音楽ホール(Auditorium de Louvre)

主 催 日本音楽財団、LA FUGUE-EUROPERA

協 力 日本財団、笹川日仏財団

来場者数 420 名

演奏曲目 プログラムは Steven Isserlis 氏の構成による。

アントニオ・ヴィヴァルディ:

4 つのヴァイオリンとチェロのための協奏曲 ロ短調 作品 3 第 10 番 RV580

ソリスト Sergey Khachatryan (1<sup>st</sup> violin), Yuki Manuela Janke (2<sup>nd</sup> violin)

Manrico Padovani (3<sup>rd</sup> violin), Hyun-Su Shin (4<sup>th</sup> violin)

石坂団十郎 (cello)

オーケストラ

Viviane Hagner (1<sup>st</sup> violin), Geza Hosszu-Legocky (2<sup>nd</sup> violin)

諏訪内晶子 (3<sup>rd</sup> violin), Arabella Miho Steinbacher (4<sup>th</sup> violin)

磯村和英 (1<sup>st</sup> viola), Steven Isserlis (cello, 2<sup>nd</sup> viola part)

Clive Greensmith (cello), Maggie Cole (harpsichord)

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト:

弦楽四重奏曲 二長調 K.575 第 1 楽章

東京クワルテット

Martin Beaver (1<sup>st</sup> violin), 池田菊衛 (2<sup>nd</sup> violin)

磯村和英 (viola), Clive Greensmith (cello)

J.S.バッハ:

2 つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV1043

ソリスト Arabella Miho Steinbacher (1<sup>st</sup> violin) 諏訪内晶子 (2<sup>nd</sup> violin)

オーケストラ

Sergey Khachatryan, Manrico Padovani (1<sup>st</sup> violin)

Viviane Hanger, Yuki Manuela Janke (2<sup>nd</sup> violin)

磯村和英 (viola) 石坂団十郎 (cello) Maggie Cole (harpsichord)

ジョセフ＝モーリス・ラヴェル/リチャード・トニエッティ編曲:

2 つのヘブライの歌より「カディッシュ」

ソリスト Steven Isserlis (cello)

オーケストラ

Viviane Hagner, Sergey Khachatryan (1<sup>st</sup> violin)

Arabella Miho Steinbacher, Yuki Manuela Janke (2<sup>nd</sup> violin)

Martin Beaver, Manrico Padovani (3<sup>rd</sup> violin)

諏訪内晶子, Hyun-Su Shin (4<sup>th</sup> violin)  
 磯村和英 (1<sup>st</sup> viola), 池田菊衛 (2<sup>nd</sup> viola\*)  
 石坂団十郎 (1<sup>st</sup> cello), Clive Greensmith (2<sup>nd</sup> cello)  
 ヨハネス・ブラームス/ヨーゼフ・ヨアヒム編曲:  
 ハンガリー舞曲 第1番、第7番  
 Geza Hosszu-Legocky (violin), 占部由美子(piano)  
 ユベール・レオナール:  
 3つのヴァイオリンとピアノのためのスペイン風セレナーデ・ユーモリスティック  
 諏訪内晶子 (1<sup>st</sup> violin), Viviane Hagner (2<sup>nd</sup> violin)  
 Yuki Manuela Janke (3<sup>rd</sup> violin), 占部由美子 (piano)  
 フェリックス・メンデルスゾーン:  
 弦楽八重奏曲 変ホ長調 作品20 (オリジナルバージョン)  
 Martin Beaver (1<sup>st</sup> violin), Viviane Hagner (2<sup>nd</sup> violin)  
 Sergey Khachatryan (3<sup>rd</sup> violin), Yuki Manuela Janke (4<sup>th</sup> violin)  
 磯村和英 (1<sup>st</sup> viola), 池田菊衛 (2<sup>nd</sup> viola\*)  
 Clive Greensmith (1<sup>st</sup> cello), 石坂団十郎 (2<sup>nd</sup> cello)

演奏者、使用楽器

東京クワルテット	Stradivarius "Paganini Quartet"
Martin Beaver	Stradivarius 1727 Violin "Paganini"
池田菊衛	Stradivarius 1680 Violin "Paganini"
磯村和英	Stradivarius 1731 Viola "Paganini"
Clive Greensmith	Stradivarius 1736 Cello "Paganini"
Sergey Khachatryan	Stradivarius 1702 Violin "Lord Newlands"
Hyun-Su Shin	Stradivarius 1710 Violin "Camposelice"
諏訪内晶子	Stradivarius 1714 Violin "Dolphin"
Geza Hosszu-Legocky	Stradivarius 1715 Violin "Joachim"
Arabella Miho Steinbacher	Stradivarius 1716 Violin "Booth"
Viviane Hagner	Stradivarius 1717 Violin "Sasserno"
Manrico Padovani	Stradivarius 1722 Violin "Jupiter"
Yuki Manuela Janke	Stradivarius 1736 Violin "Muntz"
石坂団十郎	Stradivarius 1696 Cello "Lord Aylesford"
Steven Isserlis	Stradivarius 1730 Cello "Feuermann"
Maggie Cole	Harpsichord
占部由美子	Piano
*英国王立音楽院所有	Stradivarius 1696 Viola "Archinto"

演奏者16名 ストラディヴァリウス15挺

CD&DVDの作成 2000部

今回の演奏プログラムの内、特に注目されたのはメンデルスゾーンのオクテットのオリジナル版であった。このオリジナル版は、メンデルスゾーンが16歳の時(1825年)に作

曲したものであり、財団コンサートでこれまで演奏してきたオクテットは、彼が 20 代に入ってから加筆したものである。オリジナル版は 2009 年に出版され、今回の演奏はパリ初演となった。

当日は、在フランス日本大使館の齋藤泰雄特命全権大使、日本財団の笹川陽平会長、笹川日仏財団の富永重厚理事長、当財団の楽器貸与委員でありベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール会長でもある Comte Jean-Pierre de Launoit 等にもご出席いただいた。

演奏会では、当財団の保有楽器や事業を掲載した冊子を聴衆に配布し、また、演奏会後の夕食会では当財団が過去に開催した演奏会の実録 CD 及び DVD を配布し、当財団の事業の広報に努めた。

なお、当日の演奏時のライブ映像は現地の Medici TV で 10 月 8 日から 60 日間無料で世界中に配信され、高画質なビデオで良質な演奏が不特定多数の視聴者に提供することができた(アクセス数:147,758)。これまでの財団海外演奏会ではラジオのライブ放送はあったが、このようなライブ映像がインターネットで提供されるのは今回初めてであり、財団の事業広報という面で非常に有意義なものとなった。

また、海外演奏会には多数の貸与者が参加することから、例年通り当財団の楽器アドバイザーである Andrew Hill 氏による楽器インスペクションを行った。これは、同じ目で年 1 回楽器の状態を確認すること、必要であれば管理上の注意を促すことを目的としている。

## (5) その他

2004 年度から衛星デジタルラジオ局「MUSICBIRD THE CLASSIC (7ch)」並びに衛星デジタルテレビ「クラシカ・ジャパン」の協力を得て、日本音楽財団が演奏家にストラディヴァリウス等の弦楽器名器を無償で貸与する活動をシリーズで紹介している。過去の開催も含め、当財団主催の国内外の演奏会で作成した実録 CD、DVD を演奏家の許諾を得て放送し、日本音楽財団の諸活動を周知するとともに、ストラディヴァリウスの華麗な響きを楽しんでいただいている。特に普段なかなかストラディヴァリウスの演奏に触れる機会のない地方のクラシックファンには、大変喜ばれているとの報告を受けている。

2010 年度における放送内容は下記のとおりである。

### ① 衛星デジタルラジオ MUSICBIRD THE CLASSIC (7ch)

放送月日

2010 年 5 月 30 日、再放送 6 月 5 日

ストラディヴァリウス・コンサート

～竹澤恭子ヴァイオリン・リサイタル & Encounter with Stradivari 2009～

「竹澤恭子 ヴァイオリン・リサイタル」(トッパンホールホール、2009 年 12 月 8 日収録)

「Encounter with Stradivari 2009」(グラーツ Helmut-List-Halle、

2009 年 11 月 5 日収録)

2010 年 7 月 31 日、再放送 8 月 13 日

ストラディヴァリウス・サマー・スペシャル～ストラディヴァリウスで聴くベートーヴェン～

「石坂団十郎&マルクス・シルマー デュオ・コンサート」  
(トッパンホール、2010年2月19日)

「アラベラ・美歩・シュタインバッハー ヴァイオリン・リサイタル」  
(浜離宮朝日ホール、2010年4月26日)

2011年2月27日、再放送3月5日

「ストラド&デル・ジェス コンサート2010～2つの1736年製ヴァイオリン ムンツ～」  
(紀尾井ホール、2010年6月15日収録)

「Encounter with Stradivari 2010」  
(パリ ルーヴル美術館、2010年10月7日収録)

② 衛星デジタルテレビ クラシカジャパン

「Encounter with Stradivari 2010」を2011年4月1日以降に放送。

## 2. 音楽文化の振興事業「音楽助成金の交付」

### (1) 事業の実施内容

本事業は、音楽諸団体の活動を支援して、音楽水準の向上を図るとともに、音楽の振興と普及を図ることを目的としている。助成金交付先は事業運営委員会において慎重に選定を行っている。選定にあたっては、A) マスタークラス、B) 指導者の育成、C) 子供を対象としたアウトリーチ、D) リハビリ、E) パートナーの育成、の5本の柱を中心に審査することとし、個別の案件の審議、決定を行なった。

本年度の事業運営委員会(委員名簿は巻末別表3)の開催状況は以下のとおり。

- 第1回事業運営委員会 2010年4月19日(月)
- 第2回事業運営委員会 2011年1月24日(月)(書面)
- 第3回事業運営委員会 2011年3月9日(水)(書面)

事業運営委員会で審議した結果、A) マスタークラスが6事業、B) 指導者の育成が4事業、C) 子供を対象としたアウトリーチが4事業、D) リハビリが2事業、E) パートナー(事業共催者)の育成は該当なし、その他が6事業、合計22事業、助成総額25,000,000円を決定した。22事業の内、19事業(助成金22,440,957円)が完了し、3事業(助成金2,550,000円)は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響を受け、完了期限が延長となった。(巻末別表6参照)

各団体実施事業内容は次のとおりである。(出演者及び講師等の敬称は省略)

#### A) マスタークラスに分類される事業(6事業)

(内容) 才能ある音楽家を育成していく事業で、一流の演奏技術を学ぶだけでなく、若い音楽家に先輩たちの音楽家としての心構えや音楽に対する考え方に接する場を提供し、今後の活動に大きく役立たせる事業。

(成果) マスタークラスに関わる支援要請は増加傾向にあり、クラシック音楽界の未来を担う若手演奏家の育成が重要視されていることが読み取れる。参加した受講生は、

国内外の一流の講師陣から演奏技術だけでなく、音楽家としての心構えや楽曲の解釈を学ぶなど演奏活動の総合的なレベルアップを果たしている。

#### 1) プロジェクトQ・第8章～若いクアルテット、ベートーヴェンに挑戦する～

期 日 公開マスタークラス 2010年9月～12月(5回)  
トライアル・コンサート 2011年1月8日～10日(3公演)  
修了コンサート 2011年2月5日(2公演)

団 体 プロジェクトQ実行委員会

会 場 ドイツ文化センター、KMアートホール、  
上野学園石橋メモリアルホール/オーケストラ・スタジオ(公開マスタークラス)  
紀尾井小ホール(トライアル・コンサート及び修了コンサート)

規 模 受講クアルテット5組20名  
講師 14名(原田幸一郎、原田禎夫、ウィーン弦楽四重奏団、ケヴァントハ  
ウス弦楽四重奏団他)

聴衆 マスタークラス463名(5回) トライアル・コンサート277名(3回)  
修了コンサート232名(2回)

助成額 2,000,000円(事業費総額4,216,275円、助成回数9回)

5組の若手弦楽四重奏団を対象に、1)原田幸一郎、原田禎夫の他、国際的なプロの弦楽四重奏者を講師に迎えた公開マスタークラス、2)トライアル・コンサート、3)修了コンサートを行った。若手弦楽四重奏団の育成を図るとともに、すべての過程を一般聴衆に公開し、弦楽四重奏の素晴らしさを、演奏者と聴衆とが共に体験し共有していくことを意図している。公開マスタークラスの聴講者の中には、譜面を持参し、講師の話聞きながら譜面にメモを取るなど本プロジェクトの定着したファンも多い。今回は、マスタークラスで、本国でもレッスンすることの少ないウィーン弦楽四重奏団が講師陣に初めて加わり、受講生にとっては貴重な機会となった。また、昨年、休日開催の要望があったため、今年は5回中3回を休日開催とした。本事業の趣旨に賛同した上野学園大学よりマスタークラスの会場として、オーケストラ・スタジオ、石橋メモリアルホールの提供があった。若いクアルテットの活動の場が、プロジェクトQから全国的に広がり、日本における室内楽振興運動の旗手として大きな役割が期待されている。

#### 2) ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン(MMCJ)2010

期 日 2010年6月27日～7月13日

団 体 ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン実行委員会

会 場 セミナー:かずさアカデミアホール(木更津)  
教授陣による室内楽演奏会:サントリーホール小ホール  
受講生による室内楽演奏会:横浜みなとみらいホール  
MMCJオーケストラ演奏会:サントリーホール、横浜みなとみらいホール

規 模 受講生23名(6ヶ国より、日本人13名、外国人10名)  
講師12名(アラン・ギルバート、大友直人、マイケル・ギルバート、他)

助成額 1,000,000円(事業費総額38,876,400円、助成回数9回)

日本を発信源とするオーケストラ・プレーヤーの育成を目指し、2001年に第1回

を開催し、今回、第10回を迎えた。オーディションにより選ばれた6ヶ国23名の受講生に対し、世界のメジャーオーケストラの首席奏者からなる講師陣より室内楽及びオーケストラの指導を行った。レッスンは17日間早朝から深夜まで行われ、合宿形式で共同生活することにより、技術の向上はもとより、文化・言葉の違いを超えたコミュニケーション能力の育成が図られた。レッスンの成果は、随時行われた公開演奏会の場で披露された。地域との連携としては、木更津教育委員会の協力により地元の小・中学生に音楽鑑賞の機会を提供し、横浜では公共の場で公開コンサートを開催し、子供たちや市民と触れ合う機会を設定した。

### 3) 第7回クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま

期日 2011年3月21日～30日(震災のため開催延期)

団体 クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま 実行委員会

会場 レッスン会場 : 茨城県教育研修センター

コンサート会場: 笠間公民館大ホール他

助成予定額 1,000,000円(予定事業費総額24,800,000円、助成回数4回)

今般の震災の影響により本事業は延期せざるを得ない状況となったため、2011年3月31日付けで事業者より「音楽助成金交付事業の延長申請書」の提出を受け、本事業の完了日を2012年3月31日まで延長することとした。

### 4) アップビートとかち音楽祭 2011

期日 2011年3月14日～27日

団体 アップビート春季国際音楽セミナー実行委員会

会場 北海道十勝支庁内の中札内文化創造センター、清水町文化センター、池田町田園ホール、帯広市民文化ホール、幕別町百年記念ホール、他

規模 セミナー:

受講生 25名

講師: ジェラルド・プーレ他7名(内、日本人講師4名)

コンサート(6回):

出演者 19名(講師7名、招聘演奏家12名)

聴衆 3000名

助成額 1,000,000円(事業費総額10,423,259円、助成回数2回)

セミナーは、ヴァイオリン、ピアノ、チェロ、クラリネット、室内楽のコースが準備され、世界の第一線で活躍する国内外の講師による密度の濃い指導が行なわれた。同時に、講師陣及び招聘演奏家による「モーツァルト&ショスタコーヴィチ室内楽連続演奏会」を十勝管内5会場(6公演)で開催した。この演奏会は、モーツァルトとショスタコーヴィチの室内楽に焦点を当て、2人の代表的な室内楽作品を6公演で演奏するという試みである。(去年は、シューマン&ショパン室内楽全曲演奏会、一昨年は、ブラームス室内楽全曲演奏会を実施した。)また、開催地の中札内村の児童、小学生、高校生他を対象に学校コンサート及び楽器体験ワークショップ、シンポジウムを実施した。

本事業の実施により、日本人若手演奏家の育成が図られるとともに、十勝管内でのクラシック音楽の普及、浸透が促進された。

#### 5) 若手演奏家育成プログラム

期 日 2010年6月7日～29日  
団 体 カナダ国立芸術センター National Arts Centre  
会 場 カナダ国立芸術センター(オンタリオ州オタワ)  
規 模 受講生 91名(13ヶ国)  
講師 16名  
助成額 10,000カナダドル(837,300円)

(事業費総額 408,903カナダドル、助成回数 3回)

2009年6月末まで当財団保有の楽器の演奏委託をしていたピンカス・ズッカーマンが1999年に開始した若手音楽家のための教育プログラム。13ヶ国から集まった91名の受講生は、オーディション参加者224名の中から選抜され、弦楽器、吹奏楽器、ピアノ、声楽、指揮、作曲のコースに分かれて一流の現役演奏家による指導を受ける貴重な機会を与えられた。期間中に一般に公開された受講生によるコンサート、受講生と同センター付きオーケストラとの共演は、オタワ市民に披露され大きな反響を呼んだ。また、受講生を対象にした心理学者、理学療法士による指導、質疑応答が行われ、演奏家が抱える身体、精神面での問題について話し合う良い機会となった。

#### 6) オーケストラ・アンサンブル金沢/井上道義指揮者講習会

期 日 2010年8月27日～30日  
団 体 (財)石川県音楽文化振興事業団  
会 場 石川県立音楽堂コンサートホール、交流ホール  
規 模 講師 2名(井上道義、広上淳一)、ピアニスト 2名  
受講生 47名  
モデルオーケストラ 3団体

(オーケストラ・アンサンブル金沢、金沢大学フィルハーモニー管弦楽団、いしかわミュージックアカデミー弦楽合奏団) 計 141名

助成額 1,500,000円(事業費総額 5,155,169円、助成回数 2回)

本事業は、若い指揮者の発掘、育成に強い関心を持つ井上道義が自ら企画立案したプロジェクトである。オーケストラの指揮者として活動するためには、読譜力、様々な楽器やその奏法、合理的な合奏法をはじめ音楽学の幅広い知識と能力が必要な上に、最終的には自らの意思を伝え、音楽的表現を作り上げていく能力が重要であることから、音楽学校で系統的に学ぶ技術はもとより、著名な指揮者のマスタークラスや公開レッスンの実践的訓練が重要とされている。本事業では、指揮者とは何たるかに始まり、作曲家や曲の解釈、指揮の技術的な指導などから、立ち姿、後姿まで個々の受講者が持っている長所、短所を取り上げながら講習が行われた。今回は、募集広報を大きく取り扱ったことにより、昨年より受講生を20名以上も上回る申込があった。本事業の実施により、受講者の指揮能力は著しく進化、向上し、次代を担う人材育成に大きく寄与した。

## B) 指導者の育成に分類される事業(4 事業)

(内容) 講習会・研修会の指導者・講師・リーダーを育成することにより、大都市以外の地方でも参加者が安価で質の高い講習を受けることを可能とする事業。

(成果) 指導者の育成分野の講習会や研修会は、アマチュアの演奏活動の全体的な質を向上させる手助けとなっており、東京だけでなく地方での開催も盛んで、参加者が気軽に質の高い講習を受けることが可能となっている。内容も単なる演奏技術だけでなく、より深い音楽への考察を取り入れた講習などが加わり充実してきている。参加者は、各地のアマチュアオーケストラあるいは演奏グループの指導的立場にある奏者であり、研修で得た演奏のノウハウを地元を持ち帰ることで各地の演奏活動の活性化とレベルアップに寄与している。

### 7) 高円宮殿下メモリアル 第 11 回記念日本マスターズオーケストラキャンプ

期 日 2011 年 1 月 8 日～10 日

団 体 (社)日本アマチュアオーケストラ連盟

会 場 第一生命ホール

規 模 講師 4 名

安永徹(ヴァイオリン)、林 徹也(ヴィオラ)、市野あゆみ、神村睦子(ピアノ)  
参加者 115 名(安永クラス 75 名、林クラス 40 名)

公開レクチャーコンサート:聴衆約 400 名

助成額 1,000,000 円(事業費総額 4,509,090 円、助成回数 12 回)

全国のアマチュアオーケストラ団体の中核として活躍中の方やアンサンブルを楽しもうとするシニアの方など幅広いバックグラウンドの方々が参集し、4 名の講師のもと、2 グループに分かれてオーケストラアンサンブルについての研修や弦楽器の基本的な奏法について学んだ。研修では、ボウイングやビブラートなどの奏法による表現力向上の方法、低声部を土台とするアンサンブル精度の向上方法などについて、講師自ら模範演奏を示しながら指導を行った。研修 2 日目には、高円宮妃殿下がご来臨され、安永徹と市野あゆみによる記念演奏が披露された。最終日の公開レクチャーコンサートでは、昨年よりも 100 名多い 400 名の聴衆を集め、会場はほぼ満席となった。受講者にとって非常に貴重な体験であり、彼らの経験と技術練磨が、地方オーケストラで活動を行っている人々に確実に伝えられていくことが期待できる。

### 8) 吹奏楽指導者指揮法講習会

期 日 2010 年 11 月～2011 年 3 月

団 体 (社)日本吹奏楽指導者協会

会 場 函館市芸術ホール(北海道)、酒田市希望ホール(山形)、  
朝霞市立朝霞第一中学校(埼玉)、名古屋芸術大学(愛知)、  
生駒北コミュニティセンターISTA はばたき(奈良)、熊本県立劇場(熊本)

規 模 講師:延べ 11 名

受講者 107 名

モデルバンド約 150 名

助成額 1,000,000 円(事業費総額 1,477,615 円、助成回数 17 回)

第一線で活躍する指揮者を講師として地方に派遣し、独学の困難な指揮法の普及を目的とする。吹奏楽指導者として必要な指揮法について斉藤秀雄著の「指揮法教程」を主材とし、講義、実技、ディスカッションを行う。実技ではピアノ伴奏者またはモデルバンドを指揮し、音楽表現の伝え方、奏者とのコミュニケーションのとり方を体得した。個人指導では基礎の確認、欠点の修正がなされ、受講者にとって貴重な体験となった。

#### 9) APA 河口湖音楽祭 2010

期 日 2010年10月15日～18日

団 体 NPO 法人日本アマチュア演奏家協会 (APA)

会 場 山梨県富士河口湖町 サニーデ・リゾート

規 模 講師:5名

(ヴァイオリン1名、ヴィオラ1名、チェロ1名、ピアノ1名、ファゴット1名)

参加者 92名

助成額 1,000,000円(事業費総額 2,511,615円、助成回数 12回)

アマチュア演奏家による日本最大の室内楽音楽祭を開催し、室内楽演奏の普及活動を行う。プロの演奏家による合奏指導、プロ演奏家との合奏、公開コンサートなどの研修により、室内楽演奏者を増やしアマチュアの室内楽公演活動の活性化を図った。例年、この音楽祭には多くの演奏グループから指導的立場にある奏者が参加しており、合宿で得た室内楽の演奏のノウハウを地元を持ち帰ることで各地の活動の活性化とレベルアップに寄与している。

#### 10) 2010 JASTA スtringセミナー

期 日 2010年7月31日～8月3日(八ヶ岳山麓会場)、8月31日(東京会場)

団 体 日本弦楽指導者協会

会 場 小海リエックス・ホテル、高根ふれあい交流ホール(八ヶ岳山麓会場)、自由学園明日館講堂(東京会場)

規 模 八ヶ岳山麓会場

受講生 75名 聴講生 19名 講師 9名 伴奏者 4名 スタッフ 36名  
東京会場

受講生 3名 聴講生 70名 講師 1名 伴奏者 1名 通訳 1名

助成額 1,000,000円(事業費総額 10,176,986円、助成回数 15回)

八ヶ岳山麓会場では、4日間の合宿形式にて日本フィル ソロコンサートマスターの木野雅之ら講師の指導の下、参加者全員が個人レッスン、室内楽、合奏、チェロアンサンブル、ワンポイントレッスンと様々な練習を行い、演奏技術の向上のみならず、一流の講師陣の豊かな経験、音楽性などを学ぶ事ができた。最終日には地元の方々を演奏会へ招待し練習の成果を披露した。また、東京会場では、録音による審査で選ばれた受講生 3名が公開レッスンという形式で、パリ国立高等音楽院名誉教授、現昭和音楽大学客員教授のジェラルド・プーレより熱意のこもった指導を受けた。同教授の熱意のこもった 2 時間半に亙る指導は、受講生はもとより、聴講生にとっても貴重な経験となった。

### C) 子供を対象としたアウトリーチに分類される事業(4事業)

(内容) 演奏会を主体とした事業だが、単に聴くだけでなく体験する音楽、音楽家とのふれあい、親子の会話のきっかけ作り等、いろいろな工夫を付加して積極的にクラシックの裾野の拡大に努める事業。

(成果) アウトリーチに関わる支援要請は年々増加している。これは、近年子供に対する芸術文化教育の充実が叫ばれていながら、学校では予算的に積極的に行いづらいという背景が考えられる。子供たちに単なる生演奏を体験させるにとどまらず、クラシック音楽に対する関心の掘り起こしが積極的に行われた。当財団が2007度から支援している「くらしに音楽プロジェクト」では、ニューヨークフィルのティーチングアーティストを招聘し、ワークショップ型コンサートを開催するとともに、ニューヨークフィルの30年以上の実績に基づくアウトリーチ活動についての研修・教育セミナー等を開催した。このプロジェクトは、今後の我が国の小中学校における音楽教育及びアウトリーチ活動の在り方に大きなヒントを与えるものと思料されることから、今後も注目していきたい。

#### 11) あすなろコンサート2010

期日 2010年8月～2009年11月

団体 あすなろコンサート実行委員会

会場 日本全国の僻地小規模小学校34校

規模 実施校34校(応募校数132校)

聴衆1557名(生徒868名、保護者等689名) 参加音楽家:延べ64名

助成額 1,000,000円(事業費総額2,500,000円、助成回数11回)

音楽を通じたふれあいによって心豊かな社会づくりを目指す音楽家による社会貢献活動。プロの演奏家による演奏に接する機会が少ない僻地小規模小学校(生徒数100人以下)に、東京新宿に本部を置く音楽家ユニオンの地方会員である演奏家がボランティアで、演奏の他、楽器の説明、演奏指導、コーラスのワークショップ等を行った。音楽の授業で扱う曲や校歌にアレンジを加えたり、土地の童謡を取り入れたりする等、選曲に工夫を凝らしている。2001年の事業開始以来、来校を希望する教育者や保護者が年々増加し、成果を上げている。

#### 12) 平成22年度めぐろパーシモンホール「アーティスト派遣プログラム」

期日 2010年5月～2011年2月

団体 (財)目黒区芸術文化振興財団

会場 1)目黒区立小学校(11校) 2)目黒区立中学校(1校)

規模 1)小学生聴衆者計685名 2)中学生聴衆者70名

派遣アーティスト:延べ30人

助成額 1,000,000円(事業費総額2,097,879円、助成回数4回)

直接コンサートホールに来て、音楽鑑賞をしにくい環境にある子どもたちに、彼らのホームグラウンドへアーティストを派遣する事業。子供たちが優れた芸術に触れ、表現や創造の楽しみを知り、豊かな情操を身につけていく機会の提供を目的としている。事業者、派遣アーティスト、学校による綿密な打合せを行い、プロの生演奏を聴くことはもちろん、アーティストの話、子どもたちの質問、更に一緒に演奏したり、歌ったりといったプログラムの内容で、「交流」することにも重点においている。

13) それいけ！オルガン探検隊 2010

期 日 2010年7月17日  
団 体 それいけ！オルガン探検隊事務局  
会 場 サントリーホール大ホール  
規 模 2公演（1回目 13:00～、2回目 15:30～）  
来場者計 617名

助成額 1,000,000円（事業費総額 4,691,030円、助成回数 4回）

主に小学校の高学年を対象に、パイプオルガンの仕組みと音色について判りやすく、楽しく学んでもらうとともに、本物のパイプオルガンによる演奏を聴いてもらい、より身近に音楽を感じてもらい機会を提供する事業。公演は二部構成となっており、第一部では、オルガン室、パイプ、鍵盤を実際に見学し、パイプオルガンについて楽しく学び、第二部では、客席に座り、オルガンの仕組み、歴史、音色について、模型による実験やスライドを使った判りやすい説明に加え、様々な音色を使ったオルガン演奏を聴いた。

オルガン音楽を通して音楽を身近に感じ、子ども達にとってこの事業がクラシック音楽を親しむためのきっかけとなり、将来的なクラシック音楽ファンの拡大、音楽文化の振興に寄与するものと思料される。

14) ミュージシャンと音楽であそぼう～ニューヨークからの贈り物～

期 日 2010年12月2日～8日  
団 体 ぐらしに音楽プロジェクト  
会 場 新潟大学教育学部、新潟市黒崎市民会館ホール、すみだトリフォニー、港区立東町小学校(多目的室)、日本財団バウルーム  
規 模 新潟大学教育学部学生・市民へのセミナー(新潟大) 入場者 120名  
親子コンサート(黒崎市民会館) 入場者 260名  
児童へのワークショップ(港区東町小) 参加児童数 23名、保護者 15名  
音楽家へのセミナー(港区東町小、すみだトリフォニー) 参加者 18名  
親子コンサート(日本財団バウルーム) 聴衆 102名

助成額 1,000,000円（事業費総額 4,500,393円、助成回数 4回）

ニューヨークフィルよりティーチングアーティスト 2名(ヴァイオリン、パーカッション)を招聘し、以下の事業を実施した。ワークショップ型コンサートの開催。単に演奏を聴かせるだけでなく、「奏でる」側と「聴く」側の壁を超えて両者が一体となるよう、ディスカッションしながら進める聴衆参加型のコンサート。本コンサートには、前述のニューヨークフィルの2名のティーチングアーティストの他、日本人演奏家 17名が出演した。本年度は日本のトップクラスの音楽家をティーチングアーティストと一緒に活動させた。ワークショップでは、文部科学省初等中等局、国立教育政策研究所センター長、専門官、調査官、港区教育長の視察があり、本事業の先駆性を示すことができたと共に、ティーチングアーティスト育成の必要性を伝えることができた。先駆的に活動を行ってきた本事業は、今後、コミュニケーション教育という児童のコミュニケーション能力を高めることを目的とした事業へ影響を与えることを期待したい。

#### D)リハビリに分類される事業(2事業)

(内容) 障害者やお年寄りが楽器演奏、合唱等の練習を行い発表する過程で、生きがいを見つけ、さらに障害の軽減や機能回復を目指す事業。

(成果) 音楽療法、リハビリに関しては未だ科学的に検証されてはいないが、現在注目を集めている分野であり、今後の更なる発展が期待されている。バリアフリーコンサートでは、障害者と健常者との交流を通して互いに相乗効果を得、また、手足に障害のある参加者が演奏会で手足を動かせるようになるなどのリハビリ効果も見られた。高齢者や障害者の機能回復、障害の軽減を目指す先駆けとなっている事業を支援する意義は大きい。

#### 15) みんなの音楽会

期日 2010年7月10日(静岡)、9月26日、27日(東京)、10月23日(沖縄)  
団体 財団法人東京ミュージック・ボランティア協会  
会場 静岡コンベンションアーツセンター、浴風会大ホール(東京)、沖縄市民会館  
規模 静岡 1,004名  
出演者(障害者団体12)336名  
ボランティア、一般客等668名  
東京 960名  
出演者(高齢者団体15、障害者団体9)429名  
ボランティア、一般客等531名  
沖縄 432名  
出演者(高齢者団体3、障害者団体8)227名  
ボランティア、一般客等205名

助成額 1,000,000円(事業費総額2,627,045円、助成回数12回)

当該協会は全国の老人施設や身障センター約460施設にて療養音楽の実践、指導者の育成を行っている。本事業は、高齢者や心身に障害のある方々が、リハビリテーションを目的に楽器の練習に取り組み、年1回その成果を発表できる唯一の音楽会である。東京開催は36回目、沖縄開催は19回目、静岡開催は9回目を迎え、いずれの会場も大盛況のうちに終了した。出演した高齢者、障害のある方々は、日頃の練習の成果を出し切り、参加者間の交流の輪も広がり、自信や、活力を見出すことが出来た。

#### 16) 第6回バリアフリーコンサート「夢・響き愛」

期日 2010年4月1日～2011年3月31日(震災のためコンサートを延期)  
団体 NPO法人 町田楽友協会  
会場 町田市民ホール(バリアフリーコンサート「夢・響き愛」会場)  
さくらんぼホール(ミニコンサート)、響きの森ホール(練習会場)

助成予定額 1,000,000円(予定事業費総額:3,075,000円、助成回数:4回)

今般の震災の影響により本事業は延期せざるを得ない状況(2011年3月13日にコンサート開催を予定していた町田市民ホールが、被害を受け使用不可)となったため、2011年3月30日付けで事業者より「音楽助成金交付事業の延長申請書」の提出を受け、本事業の完了日を2011年12月31日まで延長することとした。

E) パートナーの育成に分類される事業(本年度は該当事業なし)

(内容) 当財団主催の演奏会を東京以外の地域で積極的に開催するためのパートナー育成を図る。これまでの国内・海外演奏会のノウハウを提供することによって、協力関係を築く。東京以外の都市で協力機関の拡大を図ることは、当財団の知名度を全国的に高めるとともに、地方においてより質の高いコンサートを提供できるものと考えている。

なお、本年度、パートナーの育成という範疇ではなかったが、以下に示す事業は、地方のホールとの協力関係を構築するという側面も兼ね備えていたため、参考までに本項に記載する。

- ① オーケストラ・アンサンブル金沢/井上道義指揮者講習会(前述)  
石川県立音楽堂
- ② ストラディヴァリウス&デル・ジェス チャリティコンサート 2011(後述)  
いずみホール(大阪)
- ③ ストラディヴァリウス&デル・ジェス チャリティコンサート 2011(後述)  
北國新聞赤羽ホール(金沢)
- ④ 東京クワルテット with ストラディヴァリウス(後述)  
～阪神淡路大震災「1.17 希望の灯り」チャリティコンサート～  
神戸文化ホール(神戸)

F) その他(6事業)

上記 5 項目に該当しない事業であっても、音楽文化の発展に有益と認められる事業。特に、新たな試みの発掘を目的とする。

17) オーケストラの日 2011

期 日 2011年3月31日  
団 体 (社)日本オーケストラ連盟  
会 場 東京文化会館大ホール  
規 模 無料イベント参加者 延べ 3734名  
有料公演聴衆 1970名

助成額 1,500,000円(事業費総額 7,396,631円、助成回数 2回)

オーケストラをもっと身近に沢山の人々に聴いて楽しんでもらいたいという趣旨のもと、当日は午前 11 時から楽器体験、ステージのセッティングショー、ステージリハーサル見学など様々な無料イベントが開催され、午後 7 時から、広上淳一指揮のもとこの日のためだけの特別なオーケストラ(首都圏 13 のプロ・オーケストラから選抜された 121 名の演奏家により構成された「オーケストラの日祝祭管弦楽団」)が楽しく迫力あるオーケストラサウンドを提供し聴衆を楽しませた。

震災後ということで、開催するか否か熟慮されたが、開催を要望する声が多く寄せられ、開催に踏み切った。当日は、各オーケストラが募金箱を設置し、義援金を募り寄付した。

午前 11 時のオープンから子供連れなど多数の人々にイベント、オーケストラ演奏を楽しんでもらうことができ、音楽文化の普及に大いに役立った。

18) 第4回蒲郡市青少年国際交流音楽祭

期 日 2010年8月22日、23日

団 体 蒲郡市ジュニア吹奏楽団

会 場 蒲郡市市民会館 ラグーナ蒲郡

規 模 参加者 272名

(蒲郡市ジュニア吹奏楽団 71名、愛知県ジュニア吹奏楽合同バンド 112名  
中国大連市 44 中学管楽団 47名、韓国大真女子高等学校管弦楽団 42名)  
聴衆 750名(8月22日)、3000名(8月23日)

助成額 1,000,000円(事業費総額:10,800,000円、助成回数:4回)

青少年のための、音楽を通じた国際交流事業。3ヶ国4団体が参加した音楽祭では、団体ごとの演奏と、全ての参加団体による合同演奏が披露された。その後の昼食会、立食パーティーでは参加者同士が身振り手振りを交えた英語、相手国の言語で交流を図った。2日間の公演で3750名の聴衆を集め、また、メディアにも取り上げられたことで、多くの人々に当該事業の意義を周知することができた。

19) 第3回日韓若手音楽家交流コンサート

期 日 2010年9月2日～12日

団 体 日韓若手音楽家交流委員会

会 場 ソウル Ceramic Palace Hall(9/2)

東京 JT Art Hall Affinis(9/4)、

群馬県館林市三の丸芸術センター(9/6)、

宮城県仙台市青年文化センター(9/10)

秋田県仁賀保勤労青少年ホーム音楽ホール(9/12)

規 模 出演者 7名(日本人 4名、韓国人 3名) 特別出演 4名

聴衆約 1580名

(ソウル 約 400名、東京 約 230名、群馬 約 400名、宮城 約 300名、  
秋田 約 250名)

助成額 1,000,000円(事業費総額:4,387,313円、助成回数:1回)

スイスのバーゼル音楽院、バーゼル・スコラ・カントルムで共に学んできた日本と韓国の才能あふれる若き音楽家達のジョイント・コンサートを日韓両国で開催し、若手音楽家に演奏の機会を提供するとともに日韓文化交流の促進を図った。同時に地方でのコンサート開催により地方の音楽文化の普及と日韓交流も目指した。

公演終了後にバーゼル音楽院の教授から、出演者が今回の公演を通して著しく成長した、との感謝を込めた報告を受けているとのことであり、出演した日韓の若手演奏家の経験、技量を高めることに大きく貢献した。

開催地での反響も大きく、地方での日韓交流、クラシック音楽の普及にも寄与できたものと思料される。

## 20) ベートーヴェン全交響曲連続演奏会 2010DVD 制作

期 日 2011 年 1 月～3 月  
団 体 ベートーヴェン全交響曲連続演奏会 2010DVD 制作実行委員会  
会 場 東京文化会館(2303 席)  
出演者 指 揮 ロリン・マゼール  
管弦楽 岩城宏之メモリアル・オーケストラ(コンサートマスター 篠崎史紀)  
ソリスト ソプラノ 中丸三千繪、アルト 坂本 朱、  
テノール 佐野成宏、バリトン 福島明也  
合 唱 晋友会合唱団(コーラスマスター 清水敬一)

DVD 制作部数 1000 部(5 枚セット)

助成額 2,603,657 円(事業費総額 2,603,657 円、助成回数 1 回)

「ベートーヴェン全交響曲連続演奏会」は、ベートーヴェンの 1 番から 9 番の交響曲を 1 日で聴くことができる演奏会はないか、という事から企画され、2003 年以来毎年大晦日に開催されている。8 回目となる今回は初めて海外から巨匠ロリン・マゼールを迎え開催された。80 歳のマゼール氏がベートーヴェンの全交響曲を一人で指揮した今回の演奏会は、記録として後世に残すべき非常に貴重な演奏会であることから、DVD を 1000 部(5 枚セット)制作した。

なお、DVD 制作に使用する映像は、WIDE プロジェクト・慶応義塾大学によりネット配信され、スカイパーフェクト TV が編集した映像を活用した。

当日の演奏順に制作した DVD は、聴く者を引き付ける魅力あるものに仕上がり、日本の音楽関係者等に配布するとともに、マゼール氏が主宰するシャトーヴィル財団を通じて世界の音楽関係者に配布した。

本事業の実施により、我が国の西洋クラシック音楽のレベルの向上と音楽文化の発展に寄与できたものと思料される。

## 21) チェロコンGRESS・イン・ジャパン 2011

期 日 2011 年 2 月 11 日～13 日  
団 体 日本チェロ協会  
会 場 サントリーホール 大ホール、小ホール、ホワイエ  
規 模 11 日(金)オープニング・コンサート(小ホール)演奏家 6 名 聴衆 303 名  
12 日(土)ヤング・チェリスト・プロジェクト(小ホール)聴衆 211 名  
オーケストラ・スタディー(小ホール)参加者 60 名、聴講 50 名  
チェロ・アンサンブルコンサート(大ホール)演奏家 180 名、聴衆 1369 名  
13 日(日)マスタークラス(小ホール) 受講生 2 名、聴講 85 名  
リレーコンサート(小ホール)演奏家 11 名 聴衆 347 名

助成額 1,000,000 円(事業費総額 11,845,734 円、助成回数 1 回)

プロからアマチュアまで総勢 200 人を超えるチェリスト達が集結し、サントリーホールの施設をフルに使用し、グランドコンサート、アンサンブル、リレー・コンサート、ワークショップなど様々な形でチェロの素晴らしさと可能性を体感できる音楽の祭典。

2 日目に大ホールで行われたチェロ・アンサンブル・コンサートでは、スズキ・メソードの生徒達による演奏から始まり、第二部でのプロとアマチュアチェリスト総勢 180 名による演奏は、チェロ演奏の可能性を広げる試みであった。また、最終日に行われたマスタークラスでは、音楽財団の貸与者の一人である東京クワルテット チェリストのクライヴ・グリーンズミスが講師として招かれ、2 名の受講生はもとより 85 名の聴講生にとっても大変貴重な経験となった。チェロ音楽の幅広い魅力やさらなる可能性を子供から大人まで様々な参加者が体験することができた。

## 22) オープンハウス サントリーホールで遊ぼう

期 日 2011 年 3 月 27 日(震災のため開催延期)

団 体 オープンハウス サントリーホールで遊ぼう事務局

会 場 サントリーホール大ホール、小ホール

助成予定額 550,000 円(予定事業費総額 3,196,500 円、助成回数 1 回)

今般の震災の影響により本事業は延期せざるを得ない状況となったため、2011 年 3 月 31 日付けで事業者より「音楽助成金交付事業の延長申請書」の提出を受け、本事業の完了日を 2012 年 3 月 31 日まで延長することとした。

## 3. 地方における演奏会の開催事業

2010 年度は、大阪、金沢、神戸の 3 都市で開催した。詳細は以下のとおり。

### (1) ストラディヴァリウス&デル・ジェス チャリティコンサート 2011

～2 つの 1736 年製ヴァイオリン「ムンツ」～

日 時 2011 年 1 月 27 日(木) 19:00 演奏会

場 所 いずみホール(大阪府大阪市)

主 催 (財)住友生命社会福祉事業団、いずみホール、(財)日本音楽財団

特別協力 日本財団

協 賛 住友生命保険(相)

チケット販売 一律 2,000 円

チャリティ先 「いずみホール音楽普及活動」

チャリティ額 635,600 円

演 奏 者 渡辺玲子 Guarneri del Gesu 1736 年製 Violin “Muntz”使用

有希・マヌエラ・ヤンケ Stradivarius 1736 年製 Violin “Muntz”使用

江口玲(ピアノ)

来場者数 約 600 名

演奏曲目

ジャン＝マリー・ルクレール:2 つのヴァイオリンのためのソナタ

第 2 番イ長調 作品 3-2

カミーユ・サン＝サーンス:序奏とロンド・カプリッチョーソイ短調 作品 28  
ヘンリク・ヴィエニャフスキ:華麗なるポロネーズ 第 1 番 ニ長調 作品 4  
モーリツ・モシュコフスキ:2 つのヴァイオリンとピアノのための組曲  
ト短調作品 71

※ J.S.バッハ:「ガボット」独奏ヴァイオリンのためのパルティータ  
第 3 番 BWV1006 より  
リッツ・クライスラー:ウィーン奇想曲 作品 2、愛の喜び  
フランツ・ワックスマン:カルメン幻想曲  
パブロ・デ・サラサーテ:ヴァイオリン二重奏曲「ナバラ」作品 33

※<特別企画>同じ曲を 2 つのヴァイオリンで聴く  
ストラディヴァリウスとガエルネリ・デル・ジェスの 1736 年製のヴァイオリン(共に愛称  
“Muntz”)を使つての演奏会は、日本音楽財団だからこそできる演奏会である。今回は、  
バッハのヴァイオリン独奏楽曲のストラドとデル・ジェスの弾き比べ、2 つのヴァイオリンの  
ためのソナタ、2 つのヴァイオリンとピアノのための組曲、ヴァイオリンとピアノのデュオ曲  
など工夫を凝らし、来場された方々に楽しんでいただけるようなプログラム構成とした。  
チケットの販売は 2010 年 12 月 3 日に開始され、販売期間は実質 7 週間であったが、  
多くの人に来場してほしいということで価格を 2,000 円と低く設定したこと、そして前述の  
当財団ならではの企画のユニークさが功を奏し、全国的にホールが集客に非常に苦  
慮している中、7 割以上(席数 821 の内 592 席を販売)の観客動員を達成することがで  
きた。

当日は、2008 年 9 月にいずみホールで開催した当財団創立 35 周年記念「ストラディ  
ヴァリウス・コンサート」に来場されたお客様もおられ、いずみホール担当者からは、  
2008 年のストラド・コンサートや今回のストラド&デル・ジェス・コンサートのような当財団  
ならではのコンサートの再企画の要望が多数寄せられたとの報告を受けている

## (2) ストラディヴァリウス&デル・ジェス チャリティコンサート 2011

～2 つの 1736 年製ヴァイオリン「ムンツ」～

日 時 2011 年 1 月 29 日(土) 15:00 演奏会  
場 所 北國新聞 赤羽ホール(石川県金沢市)  
主 催 北國新聞、(財)日本音楽財団  
共 催 (財)石川県芸術文化協会、(財)北國芸術振興財団、石川県日伊協会  
特別協力 日本財団  
後 援 石川県、金沢市、北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川、  
ラジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオななお、金沢ケーブルテレビネット  
チケット販売 前売り 4,000 円、当日券 4,500 円  
チャリティ先 財団法人石川県芸術文化協会「0 歳からの音楽会」  
チャリティ額 1,000,000 円  
来場者数 約 500 名  
演奏曲目、演奏者、使用楽器は上記(1)の大阪公演と同様

金沢での演奏会は、前述の大阪での演奏会の2日後に同じ出演者、同じプログラムで開催した。連続して開催することにより旅費、滞在費など経費の節減を図った。

金沢公演は、地元の北國新聞と共催したことにより、演奏会の開催告知などを通じ、当財団の活動に対する理解の促進が図られた。また、日本財団の笹川陽平会長のインタビュー記事が紙面全面を使用して掲載され、当財団の楽器貸与事業の周知に大いに役立った。

会場の北國新聞赤羽ホールの座席数は504席であるが、北國新聞の開催告知、笹川会長のインタビュー記事の効果もあり、完売となった。

金沢公演の様子は、金沢ケーブルテレビネットが収録し、2月19日(土)と20日(日)に同ケーブルテレビで放送され、当日来場できなかった方々にも楽しんでもらうことができた。

大阪と金沢は、前述のとおり同じ出演者、同じプログラムでの開催であったため、金沢ケーブルテレビネットが収録した音源を利用させてもらい、金沢公演の実録CDを500部作成した。

### (3) 東京クワルテット with ストラディヴァリウス

～阪神淡路大震災「1.17 希望の灯り」チャリティコンサート～

日 時 2011年2月17日(木) 19:00 演奏会

場 所 神戸文化ホール 中ホール(神戸)

主 催 (財)神戸市民文化振興財団、神戸新聞社、(財)日本音楽財団

協 力 日本財団

チケット販売 一律 3,000 円

チャリティ先 認定特定非営利活動法人 阪神淡路大震災「1.17 希望の灯り」

チャリティ額 1,645,000 円

演 奏 者 東京クワルテット                      Stradivarius “Paganini Quartet”使用

Martin Beaver                      Stradivarius 1727 Violin “Paganini”

池田菊衛                      Stradivarius 1680 Violin “Paganini”

磯村和英                      Stradivarius 1731 Viola “Paganini”

Clive Greensmith                      Stradivarius 1736 Cello “Paganini”

来場者数 約 800 名

演奏曲目

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン:弦楽四重奏曲第 67 番 へ長調

Op.77 No.2 Hob.III:82「ロココヴィッツ」

サミュエル・バーバー:弦楽のためのアダージョ Op.11

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト:弦楽四重奏曲第 17 番

変ロ長調 K.458「狩」(ハイドン・セット第 4 番)

〈アンコール〉

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第 13 番

変ロ長調 Op.130 第 5 楽章

本演奏会は、(財)神戸市民文化振興財団からの「神戸文化ホールでは室内楽に力を入れており、是非とも東京クワルテットによる演奏会を開催したい。」という数年来の熱心な要請に応え実現したものである

主催者には、当財団と神戸市民文化振興財団の他、地元有力紙の神戸新聞社が加わり、広報・宣伝を担当した。

演奏会の形態はチャリティコンサートとし、チャリティ先は、神戸新聞社の推薦により、神戸を活動の拠点とする認定 NPO 法人 阪神淡路大震災「1.17 希望の灯り」(通称 HANDS)とした。

チケットは 2010 年 12 月から一般販売され、当初の販売は低迷したが、神戸新聞社による広報・宣伝、HANDS による地元企業、関係者への働きかけなどにより、最終的には、会場の総席数 904 席に対し、チケット販売数 578 席、招待 312 席(神戸新聞社読者クラブ 47 組 94 名、スズキメソードの生徒 60 名、その他)の合計 890 席と満席の盛況となった。

公演の 2 曲目に演奏された「バーバーの弦楽のためのアダージョ」は、ルーズベルト元米国大統領の訃報を伝える際や、ケネディ元米国大統領の葬儀、最近では、米国同時多発テロ慰霊祭など、国家的哀悼の意を表す機会に使用されてきた楽曲であり、東京クワルテットは、阪神淡路大震災で被災された方、ご遺族の方々への鎮魂の祈りを込めて演奏した。

ホールが実施したアンケートでは、音色の美しさに対する称賛とともに、「弦楽のためのアダージョ」に心にしみわたる感動を覚えた、震災からこれまでの様々な出来事を思い涙があふれた等の感想、そして東京クワルテットの再演を望む声が多数寄せられた。

本公演の実録 CD を作成し、財団の事業広報に活用した。

#### 4. 協力事業

関連団体の主催する事業に、下記内容の協力を行った。

- |        |   |
|--------|---|
| (1) 名称 | 日本太鼓チャリティコンサート  |
| 協力依頼元  | (財)日本太鼓連盟   |
| 日時     | 2010年6月4日(金)  |
| 場所     | 草月ホール   |
| 協力内容   | コンサート当日の受付等の補助業務  |
| (2) 名称 | 海の日チャリティコンサート   |
| 日時     | 2010年8月20日(金)   |
| 場所     | 東京オペラシティコンサートホール  |
| 主催     | 朝日新聞社、(財)東京フィルハーモニー交響楽団                                       |
| チャリティ先 | (財)日本対がん協会(中学生に対するがん教育)                                       |
| 協力内容   | 当財団の楽器貸与者である渡辺玲子(Guarneri del Gesu violin 1736 “Muntz”)を派遣した。 |

- |     |        |  |
|-----|--------|--|
| (3) | 名 称    | 第 53 回東京国際ギターコンクール   |
|     | 日 時    | 2010 年 11 月 21 日(土)、22 日(日)                                    |
|     | 場 所    | 東京文化会館小ホール   |
|     | 主 催    | (社)日本ギター連盟   |
|     | 協力内容   | 後援名義「財団法人日本音楽財団」の使用許諾  |
| (4) | 名 称    | 子どもの村福岡支援チャリティーコンサート<br>「渡辺玲子と九州交響楽団」                          |
|     | 日 時    | 2011 年 2 月 24 日(木)   |
|     | 場 所    | アクロス福岡シンフォニーホール  |
|     | 主 催    | (財)九州交響楽団、子どもの村福岡支援実行委員会                                       |
|     | チャリティ先 | 認定 NPO 法人子どもの村福岡   |
|     | 協力内容   | 当財団の楽器貸与者である渡辺玲子 (Guarneri del Gesu violin 1736 “Muntz”)を派遣した。 |

## 5. 広 報 活 動

日本音楽財団の事業活動を広く世の中に周知するため、以下のような広報活動を展開している。

- (1) 財団冊子(日本語、英語併記)を作成し、広く一般に配布している。
- (2) ホームページ(日本語、英語)にて、財団の事業活動全般について紹介している。
- (3) 財団ブログにて、コンサート開催状況を中心に財団の事業活動を紹介している。
- (4) 財団主催演奏会の CD、DVD を作成し、国内外の音楽関係機関、オピニオンリーダー等に配布している。本年度作成した CD、DVD は以下のとおり。
  - 1) Arabella Miho Steinbacher ヴァイオリン・リサイタル CD (2010 年 4 月 26 日東京)
  - 2) ストラディヴァリウス&デル・ジェス コンサート 2010 CD (2010 年 6 月 15 日東京)
  - 3) Encouter with Stradivarius 2010 CD&DVD (2010 年 10 月 7 日パリ)
  - 4) ストラディヴァリウス&デル・ジェス チャリティーコンサート 2011 CD  
(2011 年 1 月 29 日金沢)
  - 5) 東京クワルテット with ストラディヴァリウス CD (2011 年 2 月 17 日神戸)
- (5) 楽器貸与者との間で締結している貸与契約書に以下の内容を明記し、楽器貸与事業の周知・広報を図っている。
  - 1) 貸与者は、報道機関のインタビューや演奏会プログラムにおいて、貸与楽器の名称並びに当該楽器が日本音楽財団から貸与されていることの事実を周知・広報する。
  - 2) 貸与楽器による演奏が、CD、DVD 等の形で制作されるときは、貸与者は、貸与楽器の名称並びに当該楽器が日本音楽財団から貸与されていることの事実を当該制作物に明確に表示する。
  - 3) 貸与者は、1 年に 1 度、3 月末日に前年 4 月からの演奏会(開催日、開催場所、演奏曲目、入場者数等)並びに CD、DVD 制作に関する活動内容報告書を日本音楽財団に提出する。

本年度の長期貸与者 14 名から提出された報告によると、2010 年度における財団保有楽器を使用した演奏会は 541 回、聴衆は合計で約 56 万 9 千人となっている。また、貸与者が本年度中にリリースした CD は以下のとおりである。

① Sergey Khachatryan BACH SONATAS & PARTITAS (2010 年 3 月)

② Viviane Hagner VIEUXTEMPS Violin Concerto No.4,5,

Fantasia appassionata (2010 年 4 月)

③ Tokyo String Quartet Beethoven The 'Late' String Quartets (2010 年 10 月)

④ Lisa Batiashvili: Echoes of Time (2011 年 2 月)

- (6) 衛星デジタルラジオ局「MUSIC BIRD THE CLASSIC」並びに衛星デジタルテレビ「CLASSICA JAPAN」の協力を得て、当財団主催の国内外の演奏会で作成した実録 CD、DVD を放送し、不特定多数の方々にストラディヴァリウスの華麗な響きを楽しんでもらい、楽器貸与事業の周知・広報を図っている。(前述)
- (7) 音楽雑誌、新聞、その他マスメディアの取材要請、財団保有楽器の写真提供要請に応え、財団の活動の周知・広報を図っている。2010 年度における主な掲載記事の内容、放送内容は以下のとおりである。
- 1) 韓国の音楽月刊誌「Music Friends」(2010 年 7 月発行)  
塩見理事長へのインタビュー記事、財団保有楽器一覧、財団の演奏会の写真等が掲載された。
  - 2) パリで開催された「Encouter Stradivari 2010」のライブ映像は、Medici TV のウェブ ([www.medici.tv](http://www.medici.tv)) で演奏会の翌日 (2010 年 10 月 8 日) から 60 日から無料で配信された。アクセス数 147,758
  - 3) 2010 年 11 月 20 日開催の内田光子、Viviane Hagner チャリティコンサートは、音楽雑誌「音楽の友」2011 年 1 月号で取り上げられた。写真提供
  - 4) 英国の音楽専門雑誌「The Strad」の 2011 年カレンダー (1 月と 8 月の頁) に当財団から提供したストラディヴァリウスチェロ「Lord Aylesford」、「Feuerumann」の写真が掲載された。
  - 5) 小学校の教材を扱う会社「全教図」の楽器史年表に当財団が提供した「Paganini Quartet」の写真が掲載された。
  - 6) スイスの出版社である Cozio Publishing が 2011 年 1 月に出版した「HARRY WAHL's VIOLINS」(ヴァイオリンコレクターであった Harry Wahl 氏のコレクションについての本) にストラディヴァリウスチェロ「Lord Aylesford」の写真を提供した。
  - 7) その他多数

別表 1

財団法人 日本音楽財団理事・監事名簿

(2011年3月31日現在、敬称略)

会 長	小 林 實	(財)地域活性化センター顧問
理 事 長	塩 見 和 子	常 勤
常務理事	小 関 悦 男	常 勤
(以下理事はアルファベット順)		
理 事	海 老 澤 敏	尚美学園大学大学院特別専任教授
理 事	福 井 俊 彦	元日本銀行総裁 一般財団法人キャングローバル戦略研究所理事長
理 事	長 谷 川 和 年	世界平和研究所監事及び研究顧問 元駐オーストリア大使
理 事	畠 山 向 子	(財)畠山記念美術館館長
理 事	日 野 原 重 明	聖路加国際病院名誉院長
理 事	岩 淵 龍 太 郎	ヴァイオリニスト
理 事	児 玉 幸 治	(財)機械システム振興協会会長
理 事	松 木 康 夫	新赤坂クリニック名誉院長
理 事	新 田 勇	元(株)東芝専務取締役
理 事	斉 藤 邦 彦	元駐アメリカ合衆国大使 学校法人北鎌倉女子学園理事長
理 事	佐 治 俊 彦	毎日新聞社社友
理 事	植 村 伴 次 郎	(株)東北新社最高顧問
監 事	垣 見 隆	弁護士
監 事	山 内 悦 嗣	公認会計士

別表 2

財団法人 日本音楽財団評議員名簿

(2011年3月31日現在、敬称略)

(アルファベット順)

相川直樹	(財)国際医学情報センター理事長
荒蒔康一郎	キリンホールディングス(株)相談役
海老沢勝二	学校法人大隈記念早稲田佐賀学園副理事長
木全ミツ	NPO 法人女子教育奨励会理事長
清原武彦	産経新聞社会長
小林道夫	ピアニスト、チェンバロ奏者
前和男	東京音楽大学顧問
奈良久彌	(株)三菱総合研究所特別顧問
須磨久善	(財)心臓血管研究所付属病院スーパーバイザー 心臓外科医
丹治誠	元日本銀行理事
矢野文一	(財)自治総合センター監事

別表 3

事業委員名簿

(2011年3月31日現在、敬称略)

楽器貸与委員 (欧州・米国・アジアの代表で構成)

委員長 Lorin Maazel	指揮者
Marta Casals-Istomin	マンハッタン音楽院前学長
Ana Chumachenco	ヴァイオリニスト、ミュンヘン音楽大学教授
Kyung-Wha Chung	ヴァイオリニスト、ジュリアード音楽院教授
海老澤 敏	本財団理事
Jean-Pierre de Launoit	ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール会長
Curtis Price	ニュー・カレッジ・オックスフォード学長
Janos Starker	チェリスト、インディアナ大学音楽学部教授
塩見 和子	本財団理事長

事業運営委員

委員長 鹿海信也 元文化庁文化部長

(以下委員はアルファベット順)

委員 藤掛廣幸	作曲家
委員 岩井宏之	音楽評論家
委員 川本統脩	洗足学園音楽大学講師
委員 齋藤一郎	東京藝術大学名誉教授
委員 関根五郎	(財)NHK 交響楽団団友
委員 塩見和子	本財団理事長

## 財団保有楽器の概要

(2011年3月31日現在)

### Stradivarius “Paganini Quartet”

ストラディヴァリのクワルテットは地球上に6セットしか存在しないと言われているが、このクワルテットはそのうちの1つである。19世紀におけるイタリアの卓越したヴァイオリンの巨匠ニコロ・パガニーニ(1782-1840)が、クワルテット演奏に相応しい4挺を収集し演奏していたことからこの名前が付けられた。パガニーニは、特にヴィオラの音質に感銘を受けたためフランスの作曲家エクトル・ベルリオーズ(1803-1869)にヴィオラのための交響曲を委託し、その結果『イタリアのハロルド』が作曲された。当財団は4挺を常にセットとして使用し続けてもらうために、現在「東京クワルテット」に貸与している。

このクワルテットは、1680年製作のヴァイオリン、1727年製作のヴァイオリン、1731年製作のヴィオラ、1736年製作のチェロにより構成されている。

1994年2月にアメリカ・ワシントンD.C.のコーコラン美術館から当財団が購入したものである。

### 1700年製 Stradivarius Violin “Dragonetti”

このヴァイオリンはネックの部分が製作当時のオリジナルのままという、とても貴重な楽器である。著名なコントラバス奏者ドメニコ・ドラゴネッティ(1763-1846)によって所有されていたことから現在この名前と呼ばれている。ドラゴネッティは、コレクションとして、コントラバス、ヴァイオリン、チェロ、ハープ、ギターなどを収集していた。最近では、世界的なヴァイオリン奏者、フランク・ピーター・ツィンマーマン(1965-)によって世界各国で演奏されていた。

2002年6月に当財団が購入したものである。

### 1702年製 Stradivarius Violin “Lord Newlands”

イギリスのニューランズ卿(1890-1929)によって生涯大切に所有されていたため現在このように呼ばれている。1964年から1982年にこの楽器を保管していたロンドンのヒル商会が、1973年にバースの古楽器名器展示会にて、当時のヒル商会を代表する楽器としてこのヴァイオリンを展示した。世界的に著名なヴァイオリン奏者アイザック・スターン(1920-2001)はこの楽器を演奏した際、自身が所有しているデル・ジェストと同じパワーを感じる、と語っていた。

2002年6月に当財団が購入したものである。

### **1708 年製 Stradivarius Violin “Huggins”**

この楽器を 1880 年頃に所有していたイギリスの著名な天文学者であるウィリアム・ハギンス卿(1824-1910)に因んで「ハギンス」と呼ばれている。この楽器は 1997 年以降ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門優勝者に貸与され、4 年ごとに次の優勝者に引き継がれてきた。過去の優勝者はデンマークのニコライ・ズナイダー(1997)、ラトビア出身のバイバ・スクリデ(2001)、アルメニア出身のセルゲイ・ハチャトリアン(2005)、オーストラリア出身のレイ・チェン(2009)に貸与。なお、2009 年よりコンクールの周期が 3 年ごととなるため、貸与期間も 3 年となる。

1995 年 3 月に当財団が購入したものである。

### **1709 年製 Stradivarius Violin “Engleman”**

このヴァイオリンは、ヤング海軍中佐が第 2 次世界大戦で戦死して手離されるまでの 150 年間、ヤング家で大切に保管されていたため、音色も楽器の保存状態も稀なほど良好である。当財団が所有する以前は、アメリカのアマチュア・ヴァイオリン奏者で収集家のエフレイム・エングルマンが所有していたため「エングルマン」と呼ばれている。

1996 年 5 月に当財団が購入したものである。

### **1710 年製 Stradivarius Violin “Camposelice”**

このヴァイオリンは 1880 年代にカンポセリーチェ公爵の手に渡ったことから「カンポセリーチェ」と呼ばれている。その後 1894 年にボストンで美術館を設立したジャック・ガードナー夫人の手に渡り、作曲家でありヴァイオリン奏者であったマーティン・ローフラーによって 1928 年まで演奏・保管されていた。1937 年にはクレモナ楽器名器展示会にキューネ博士のコレクションとして展示されている。財団が購入する前は、30 年間以上ベルギーのアマチュア奏者のもとで大切にされてきた楽器である。楽器の内側の状態はオリジナルのままであり、楽器全体の状態は良好である。

2004 年 9 月に当財団が購入したものである。

### **1714 年製 Stradivarius Violin “Dolphin”**

この楽器は現在最も知名度の高い名器の 1 つといっても過言ではない。音色並びに保存状態も優れており、1715 年製「アラード」と 1716 年製「メシア」に並ぶストラディヴァリウスの 3 大傑作の 1 つと言われている。この楽器は、過去に巨匠ヤシャ・ハイフェッツ(1901-1987)によって使用されていた。裏板の美しいニスの光沢と色がまるで優美なイルカのようなことから、1800 年代後半の所有者でありロンドンの楽器商のジョージ・ハートが「ドルフィン」という名を付けた。

2000 年 2 月に当財団が購入したものである。

### **1715 年製 Stradivarius Violin “Joachim”**

この楽器は、有名なハンガリーのヴァイオリン奏者、ヨーゼフ・ヨアヒム (1831-1907) が所有していたストラディヴァリウス 1715 年製ヴァイオリン 5 挺の内の 1 つである。この楽器はヨアヒムからヴァイオリン・レッスンを受けていたヨアヒムの兄弟の孫娘アディラ・アラニに遺贈されたため「ヨアヒム＝アラニ」としても知られている。日本音楽財団が購入するまで、アラニ家に代々受け継がれてきた。

2000 年 9 月に当財団が購入したものである。

### **1716 年製 Stradivarius Violin “Booth”**

1855 年から 1856 年にかけてイギリスのブース夫人が息子のために購入し所有していたため、現在の名前が付けられた。1931 年にはアメリカの名高いヴァイオリン奏者、ミシャ・ミシャコフ (1896-1981) の手に渡った。1961 年には、このヴァイオリンはニューヨークのホットエンジャー・コレクションの一部となり、そのコレクションカタログにも写真が掲載されている。

1999 年 1 月に当財団が購入したものである。

### **1717 年製 Stradivarius Violin “Sasserno”**

1845 年からフランスのサセルノ伯爵が所有していたことから「サセルノ」と呼ばれている。1894 年にはヴァイオリン奏者のオットー・ペイニガーによって所有され、後にイギリスで有名な醸造所を所有していたピカリング・フィップスが購入した。1906 年にはイギリスの産業資本家ヘンリー・サマーズの手に渡り、それ以後 90 年以上同家で大切に保管されていたため、製作時のままのニスが多く残っており保存状態が非常に優れている。

1999 年 5 月に当財団が購入したものである。

### **1721 年製 Stradivarius Violin “Lady Blunt”**

このヴァイオリンは、ラブレス伯爵の娘で、詩人として有名なバイロンの孫娘のレディアン・ブラントが所有していたことからこの名前と呼ばれている。アシュモレアン博物館所有の 1716 年製「メシア」そして 1690 年製「タスカン」と同様、ほとんど未使用。保存状態が非常に優れており製作当時のオリジナルのネックとバス・バーが残っている。ペグボックスの底に記された“PG”の文字は、ヴァイオリンの型を表し、ストラディヴァリ円熟の時代を代表するものである。かつては、ストラディヴァリの息子、パオロ・ストラディヴァリの頭文字“PS”だと思われていた。

2008 年 6 月に当財団が購入したものである。

### **1722 年製 Stradivarius Violin “Jupiter”**

このヴァイオリンは、1800 年頃にイギリスの偉大な収集家で当時の所有者のジェームス・ゴディングが名付けたと言われている。また、大切に使用されてきたため保存状態が素晴らしく、オリジナル・ニスも十分に残っている。日本が世界に誇るヴァイオリン奏者、五嶋みどり(1971-)も演奏したことがある名器である。

1998 年 5 月に当財団が購入したものである。

### **1725 年製 Stradivarius Violin “Wilhelmj”**

1866 年以降、約 30 年間この楽器を所有していた著名なドイツのヴァイオリン奏者、オウガスト・ウィルヘルミ(1845-1908)に因んで「ウィルヘルミ」という名が付けられた。ウィルヘルミの所有していた数多くのヴァイオリンのうち最も愛用されていた楽器だったが、「演奏者として華のあるうちに引退したい」と言い、アメリカの弟子に手渡されたという。

2001 年 6 月に当財団が購入したものである。

### **1736 年製 Stradivarius Violin “Muntz”**

内側に貼られたラベルにストラディヴァリ本人の手書きで「92 歳の作品」と書かれている珍しい楽器である。透明な黄褐色のニスが楽器のほぼ全体にきれいに残っており、保存状態も音色も格段に優れている。1874 年以降、イギリスの収集家ムンツ氏が所有していたため、「ムンツ」と呼ばれている。1737 年に死去したストラディヴァリが、亡くなる直前に製作した楽器の 1 つとして知られている名器である。

1997 年 7 月に当財団が購入したものである。

### **1696 年製 Stradivarius Cello “Lord Aylesford”**

アマチュア奏者として有名であったイギリスのアイレスフォード卿が 1780 年代初期にイタリアの名高いヴァイオリン奏者フェリーチェ・デ・ジャルディーニ(1716-1796)から購入し、その後アイレスフォード家に約 100 年間所有されていたことからこの名前が付けられた。1946 年にはアメリカ在住の世界的に著名なチェロ奏者グレゴール・ピアティゴルスキー(1903-1976)の手に渡り、続いて 1950 年から 1965 年には世界が認めるチェロの巨匠ヤーノシュ・シュタルケル(1924-)によって演奏会や 35 枚のレコーディングのために使用された。

2003 年 6 月に当財団が購入したものである。

### **1730 年製 Stradivarius Cello “Feuermann”**

通常のチェロと比べ、楽器本体の部分が細長い点が特徴である。世界的に著名なオーストリアのチェロの巨匠、エマニュエル・フォイアマン(1902-1942)が1934年から、演奏活動やレコーディングに使用したことから、「フォイアマン」と呼ばれている。フォイアマンは斎藤秀雄が師事したこともあり、日本でもよく知られている。

1996 年 12 月に当財団が購入したものである。

### **1736 年製 Guarneri del Gesu Violin “Muntz”**

アントニオ・ストラディヴァリと並び称される名工、ガアルネリ・デル・ジェス(1698-1744)の手によるヴァイオリン。イギリスの収集家ムンツが一時期所有していたことから、この名前で親しまれている。日本音楽財団ではストラディヴァリとガアルネリによって同じ1736年に製作された2挺の「ムンツ」を保有しており、同じ年に製作され、同じ愛称を持つ2挺の名器の音色の聴き比べ、という日本音楽財団だからこそできる演奏会を企画・開催している。

1995 年 3 月に当財団が購入したものである。

### **1740 年製 Guarneri del Gesu Violin “Ysaye”**

この楽器はベルギーを代表するヴァイオリン奏者ウジェーヌ・イザイ(1858-1931)が所有していたことから「イザイ」という名が付けられた。イザイの提案でベルギーのエリザベート王妃が1937年に実現したのが前述のエリザベート王妃国際音楽コンクールである。この楽器の中には小さなラベルが貼られ、赤いインクで「このデル・ジェスは私の生涯を通じて忠実なパートナーだった。イザイ1928」とフランス語で書かれている。イザイ国葬の際には棺の前をクッションに載せられ行進した名器である。その後、1965年に世界的に著名な巨匠アイザック・スターン(1920-2001)が所有し、生涯愛用した。

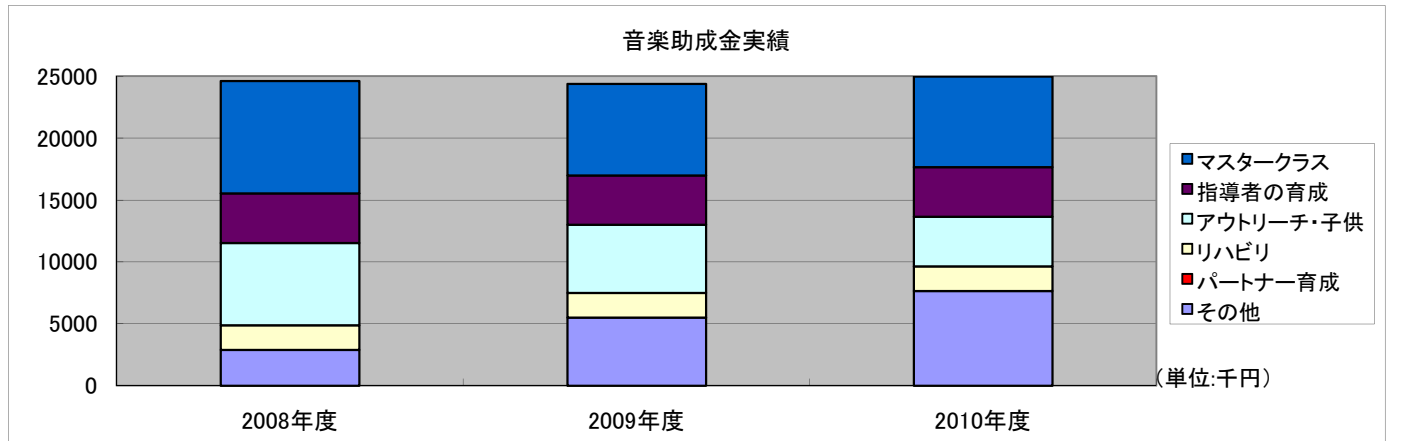
1998 年 3 月に当財団が購入したものである。

以上、当財団はストラディヴァリウス・ヴァイオリン 15 挺、ストラディヴァリウス・チェロ 3 挺、ストラディヴァリウス・ヴィオラ 1 挺、ガアルネリ・デル・ジェス・ヴァイオリン 2 挺の合計 21 挺の弦楽器を保有している。

楽器名	貸与演奏家	貸与開始	備考
(長期貸与)			
Antonio Stradivari "Paganini Quartet"	Tokyo String Quartet	1995/9/27	
(1)Violin 1680	池田菊衛	1995/9/27	ニューヨーク在住
(2)Violin 1727	Martin Beaver	2002/9/1	〃
(3)Viola 1731	磯村和英	1995/9/27	〃
(4)Cello 1736	Clive Greensmith	1999/6/1	〃
(5)Antonio Stradivari 1700 Violin "Dragonetti"	Veronika Eberle	2009/5/11	ドナウヴェルト(ドイツ)在住
(6)Antonio Stradivari 1709 Violin "Engleman"	Lisa Batiashvili	2001/11/20	ラモルレイ(フランス)在住
(7)Antonio Stradivari 1714 Violin "Dolphin"	諏訪内晶子	2000/8/11	パリ在住
(8)Antonio Stradivari 1716 Violin "Booth"	Arabella Miho Steinbacher	2005/5/6	ミュンヘン在住 2005/5よりStrad. Muntz貸与 2006/9よりStrad. Booth貸与
(9)Antonio Stradivari 1717 Violin "Sasserno"	Viviane Hagner	1999/5/27	ベルリン在住
(10)Antonio Stradivari 1736 Violin "Muntz"	Yuki Manuela Janke	2007/11/2	グローベンゼル(ドイツ)在住
(11)Antonio Stradivari 1696 Cello "Lord Aylesford"	石坂団十郎	2004/1/29	ベルリン在住
(12)Antonio Stradivari 1730 Cello "Feuermann"	Steven Isserlis	1998/1/16	ロンドン在住
(13) Guarneri del Gesu 1740 Violin "Ysaye"	Sergey Khachatryan	2005/5/31	エッショホルン(ドイツ)在住 2005年エリザベートコンクール優勝Huggins貸与 2009/4よりLord Newlands貸与 2011/1よりYsaye貸与
(短期貸与)			
(14)Antonio Stradivari 1708 Violin "Huggins"	池田菊衛	2010/10/11	ニューヨーク在住 Paganini Violin1680修理中の代替楽器として
(15)Guarneri del Gesu 1736 Violin "Muntz"	渡辺玲子	2010/6/8	演奏会及びCDレコーディングのため
(その他)			
(16)Antonio Stradivari 1702 Violin "Lord Newlands"			ドイツの楽器商で保管中
(17)Antonio Stradivari 1710 Violin "Camposelice"			長期貸与後のメンテナンス中(英国の楽器商)
(18)Antonio Stradivari 1715 Violin "Joachim"			長期貸与後のメンテナンス中(ドイツの楽器商)
(19)Antonio Stradivari 1722 Violin "Jupiter"			長期貸与後のメンテナンス中(スイスの楽器商)
(20)Antonio Stradivari 1725 Violin "Wilhelmj"			長期貸与後のメンテナンス中(ドイツの楽器商)
(21)Antonio Stradivari 1721 Violin "Lady Blunt"			

長期貸与13挺、短期貸与2挺、その他6挺 現在保有楽器 計21挺

別表 6



	2008年度		2009年度		2010年度	
マスタークラス	プロジェクトQ実行委員会	2,000	プロジェクトQ実行委員会	2,000	プロジェクトQ実行委員会	2,000
	ミュージック・マスターズ・コース in かざさ実行委員会	1,000	ミュージック・マスターズ・コースジャパン実行委員会	1,000	ミュージック・マスターズ・コースジャパン実行委員会	1,000
	カナダ国立芸術センター	1,594	カナダ国立芸術センター	895	クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま ※	1,000
	クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま	1,500	クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま	1,000	アップビート春季国際音楽セミナー実行委員会	1,000
	アップビート春季国際音楽セミナー実行委員会	1,000	アップビート春季国際音楽セミナー実行委員会	1,000	カナダ国立芸術センター	837
	21世紀の合唱を考える会合唱人集団「音楽樹」	1,000	石川県音楽文化振興事業団	1,500	石川県音楽文化振興事業団	1,500
	アナ・チュマチェンコ・ヴァイオリン・マスタークラス実行委員会	1,000				
指導者の育成	(社)日本アマチュアオーケストラ連盟	1,000	(社)日本アマチュアオーケストラ連盟	1,000	(社)日本アマチュアオーケストラ連盟	1,000
	日本吹奏楽指導者協会	1,000	日本吹奏楽指導者協会	1,000	日本吹奏楽指導者協会	1,000
	日本アマチュア演奏家協会	1,000	日本アマチュア演奏家協会	1,000	日本アマチュア演奏家協会	1,000
	日本弦楽指導者協会	1,000	日本弦楽指導者協会	1,000	日本弦楽指導者協会	1,000
アウトリーチ	あすなろコンサート実行委員会	1,000	あすなろコンサート実行委員会	1,000	あすなろコンサート実行委員会	1,000
	石川県音楽文化振興事業団	2,000	(社)日本オーケストラ連盟	1,500		
	NPO静岡交響楽団	638				
	(財)目黒区芸術文化振興財団	1,000	(財)目黒区芸術文化振興財団	1,000	(財)目黒区芸術文化振興財団	1,000
	サントリーホールで音楽しよう事務局	1,000	それいけ！オルガン探検隊事務局	1,000	それいけ！オルガン探検隊事務局	1,000
	くらしに音楽プロジェクト	1,000	くらしに音楽プロジェクト	1,000	くらしに音楽プロジェクト	1,000
ピリリハ	(財)東京ミュージック・ボランティア協会	1,000	(財)東京ミュージック・ボランティア協会	1,000	(財)東京ミュージック・ボランティア協会	1,000
	町田楽友協会	1,000	町田楽友協会	1,000	町田楽友協会 ※	1,000
ナト						
その他	蒲郡市ジュニア吹奏楽団	1,000			蒲郡市ジュニア吹奏楽団	1,000
	新学校音楽推進会	700	神奈川芸術文化財団	1,500	(社)日本オーケストラ連盟	1,500
	ヴェールズ弦楽四重奏団特別演奏会実行委員会	1,200	日本モーツァルト研究所	1,500	日韓若手音楽家交流委員会	1,000
			三河市民オペラ制作委員会	1,500	ベートーヴェン全交響曲連続演奏会 2010	2,604
			ガダニーニ・コンクール実行委員会	1,000	日本チェロ協会	1,000
				オープンハウス サントリーホールで遊ぼう ※	550	
	22件	24,632	21件	24,395	22件	24,991

※ 東日本大震災の影響により事業を延期した。

## 1. マスタークラス

才能ある音楽家を見出し、育成していく事業で、一流の演奏技術を学ぶだけでなく、若い音楽家にとっては音楽家としての心構えや音楽に対する考え方に接する貴重な機会を提供し、今後の活動に大きな自信を与える事業。

## 2. 指導者の育成

講習会・研修会の指導者を育成することにより、新しい地区で分散して効率的に講習会・研修会を開催を可能にするとともに、参加者が気軽に質の高い講習を受けることを可能とする事業。

## 3. 子供のためのアウトリーチ

演奏会を主体とした事業だが、単に聴くだけでなく体験する音楽、音楽家とのふれあいを求めたアウトリーチ活動などを付加して、積極的にクラシックの裾野の拡大に努める事業。

## 4. リハビリ

障害を持つ子供やお年寄りが演奏等を行なうことによって、機能回復や障害の軽減を目指す事業

## 5. パートナー(事業共催者)の育成

今後、当財団主催の演奏会を東京以外の地域で積極的に開催するためのパートナーの育成を図る。今までの国内・海外での演奏会のノウハウを提供することによって協力関係を築く。助成事業ではあるが、場合によっては当財団が共催者として演奏家の招聘を行なう等色々な協力を行なう。

## 6. その他

上記のとおり2010年度事業報告書を提出いたします。

2011年6月13日

財団法人 日本音楽財団

会 長 小 林 實 (印)

理 事 長 塩 見 和 子 (印)

2009年度事業報告書を監査した結果、適正かつ妥当であると認めます。

2011年6月13日

監 事 垣 見 隆 (印)

監 事 山 内 悦 嗣 (印)